

調布市民プールに係る関係者の意向等 調査結果について

調布市民プールに係る関係者の意向等調査

1-1 調布市民の公営プールに関するアンケート調査

(1) 調査計画

1) 調査の目的

本調査は、調布市民プールや市内の他の公営プールについて、利用者(受益者)である市民の利用状況や満足度、意向・要望等を直接把握し、今後の調布市民プールのあり方を検討するための基礎資料を得ることを目的に行いました。

2) 調査地域

調布市全域

3) 調査対象者

市内在住の16歳以上の市民と小学生・中学生を対象としました。

16歳以上の市民： 住民基本台帳から無作為抽出した市民3,061人(3,000人を基本としつつ、宛先不明等による差戻しを考慮して多めに送付)

小・中学生： 市内の公立小中学校(小学校20校、中学校8校)の小学校3年生、6年生と中学校2年生の全児童・生徒計5,183人

表1 アンケートの調査対象者

区 分		対象者数	
16歳以上の市民		3,061人	
小・中学生	小学校 3年生	1,874人※	5,183人
	小学校 6年生	1,861人※	
	中学校 2年生	1,448人※	

※児童・生徒数：令和6年5月1日現在の通常学級の生徒数

4) 調査方法

16歳以上の市民

- ・ 郵送による配布・回収を基本としつつ、回答者の利便性を考慮し、郵送した調査票に記載する二次元コードからWEBフォームにアクセスしての回答も受け付けました。
- ・ 回答の前提となる最低限の予備知識を揃えるため、公営プールを取り巻く状況について概説する資料を1枚添付しました。(次ページ参照)

小・中学生

- ・ 教育委員会を通じて各学校にWEBフォームの二次元コードを配布し、回答を依頼しました。

調布市内の公営プールに関するアンケート調査のお願い

市が運営する「調布市民プール」では、令和5年10月に行った施設点検の際に50メートルプールの水位が低下する事象が確認されました。これを受け、施設全体の劣化度を確認する調査を行った結果、施設の大きな劣化が確認されました。

こうした施設全体の改修・更新のほか、近年の気候変動による猛暑日の増加など、屋外プールをめぐる環境の変化に伴う様々な課題もあります。このような状況を総合的に勘案し、令和7年度以降、当面の間は市民プールの開設を中止することとし、検討委員会を立ち上げ、今後の市民プールのあり方について検討を進めています。

こうした検討に当たり、市民の皆様の公営プールに関する利用状況やニーズなどを把握・分析するため、無作為抽出した16歳以上の市民3,000名を対象に、「調布市内の公営プールに関するアンケート調査」を実施します。

お忙しいところ誠に恐縮ですが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

アンケート回答に関するお願い

- ① アンケートはできるだけご本人がご回答ください。ただし、お一人で回答が難しいものは、ご家族と相談してご回答ください。
- ② アンケート票へのご記入は、鉛筆、ボールペン等ではっきりとお書きください。WEBからご回答される方はアンケートの途中保存ができないため、**落ち着いて入力できる環境で～10分程度**です。

※アンケートは無記名方式で行い、統計的に処理いたします。目的以外に使用

アンケートの返送方法

返送方法は、回答用紙への記入後に同封の返信用封筒に入れてご返送等を利用したWebからの回答が可能です。(どちらか一方の方法でこ



1. 郵送の場合

お手数ですが、記入後の回答用紙を同封の返信用封筒に入手は不要です)



2. Webの場合

スマートフォン等から、右の2次元コードを読み取るとアンケートが表示されます。表示される設問に従って、ご回答ください。
郵送: 当日消印有効
WEB: 当日23時まで

回答期限 令和7年 7月 25 日(金)

■ お問い合わせ先

調布市 生活文化スポーツ部 スポーツ振興課

メールアドレス: sports@city.chofu.lg.jp

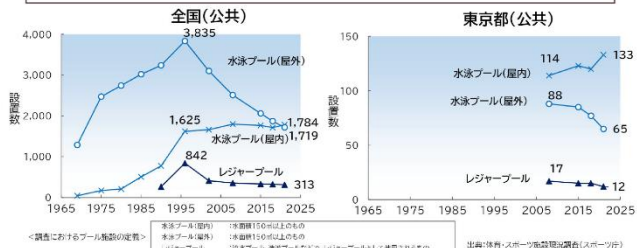
☎電話

1

(参考)公営プールを取り巻く現状

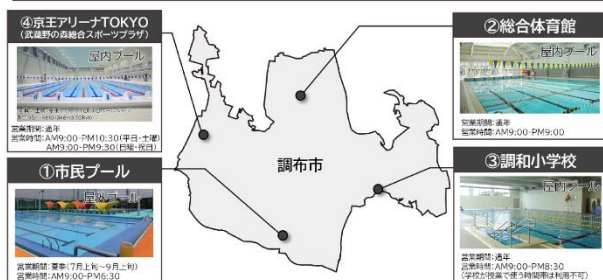
1 公営プールの設置数の推移はどうなっているの？

日本では1970年代以降、レジャープールの定着や第二次ベビーブーム世代の増加を背景として、主に子どもや家族をターゲットとした公営プール(主に屋外)が全国で次々と整備されました。その後、1980年代からスイミングスクールやスポーツクラブ等の民間プール(主に屋内)が各地で整備されるとともに、夏季のみしか利用できない屋外プールの需要を奪い、そしてバブル崩壊やレジャーの多様化、さらに猛暑やゲリラ豪雨など異常気象の増加もあり利用者が減少し、自治体の財政難も相まって減少の一途をたどっています。



2 調布市内にはどのような公営プールがあるの？

調布市内には、市営プールとして①市民プール、②総合体育館屋内プールがあります。また、市立小学校では、③調和小学校に屋内プールが整備され、市民開放で一般利用されています。このほか、都立施設として、④京王アリーナTOKYO(武蔵野の森総合スポーツプラザ)屋内プールがあります。



2

図 1 市民アンケートに付けた説明資料

5) アンケート設問項目

回答者の負担感も考慮して設問数は概ね 5～10 分程度で回答できる程度とし、以下の設問項目としました。

表 2 アンケート設問項目

1) 調布市内公営プール施設の利用状況, 認知状況		
設問①	調布市内にあるこれらの公営プールを利用したことがありますか。	選択式
2) 直近3年間のプール施設の利用状況		
設問②	直近の3年程度(コロナ禍後)の期間でプール施設(屋内・屋外,市内・市外,公営・民間を問わず)を利用したことがありますか。	選択式
設問③	設問②で「(直近の3年程度の期間で)利用したことがある」と回答した方へ以下の設問。 (1)利用したことがある施設 (2)主な利用目的 (3)施設を選んだ主な理由	選択式 複数選択式
3) 直近3年間でプール施設を利用しなかった理由		
設問④	設問②で「(直近の3年程度の期間で)利用したことがない」と回答した理由。	複数選択式
4) 公営プールの役割に対する期待		
設問⑤	公営プールの役割として期待することは何ですか。	選択式
5) 自由意見		
設問⑥	調布市の公営プール(市民プール, 総合体育館プール, 調布小学校屋内プール)に対する意見や要望など。	自由記述
6) (16歳以上の市民の場合)回答者の属性		
設問⑦	年齢(年代)	選択式
設問⑧	現在一緒に住んでいる家族	複数選択式
設問⑨	お住まいの町名	選択式
6) (16歳未満の市民の場合)回答者の属性		
設問⑦	学年	選択式
設問⑧	学校名	複数選択式
設問⑨	お住まいの町名	選択式

(2) 調査実施期間

16歳以上の市民: 令和7年7月7日(月)～7月25日(金)

小・中学生: 令和7年7月10日(木)～7月25日(金)

(3) 回収結果及び回答者の基本属性

1) 回答数, 回収率

16 歳以上の市民の回答は, 返信用封筒での紙での回答と2次元コードを読み取る WEB フォームからの回答の2つの方法で回収し, 有効回答数 1,075 件, 有効回収率 35%でした。

小・中学生の回答は, WEB フォームのみから回収を行い, 有効回答数 2,963 件, 有効回収率 57%でした。

表 3 有効回答数と有効回収率

対象者	配布数 a	紙回答数 b	WEB回答数 c	有効回答数計 b+c	有効回収率 (b+c)/a
① 16 歳以上の市民	3,061	688	387	1,075	35%
② 小・中学生	5,183	—	2,963	2,963	57%
小学校 3 年生	(1,874)	—	836	836	45%
小学校 6 年生	(1,861)	—	1,226	1,226	66%
中学校 2 年生	(1,448)	—	901	901	62%

2) 標本誤差

本アンケート調査は, 母集団の中から, 無作為抽出した方を対象に実施した標本調査です。

標本誤差は, 仮に母集団を対象に調査を実施した場合の結果と, 標本調査で実施した結果の値との間で想定される差を意味します。

本アンケート調査では, 標本誤差が最大でも「16歳以上の市民」が 3.0%, 「小・中学生」が 1.7%となり, 許容できる標本誤差の範囲である5%未満に収まるため, 母集団に対し妥当な標本データ数を得ることができたといえます。

(参考)

$$\text{標本誤差} = \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{p(1-p)}{n}} \times 1.96$$

項目	値		備考
	16歳以上の市民	小・中学生	
N	210,365	30,244※	母集団数(調布市人口/令和7年7月1日 住民基本台帳) ※「小・中学生」の母集団数は 15 歳以下の人口
n	1,075	2,963	サンプルサイズ(有効回答数)
信頼度	95%		サンプルが母集団を代表する率。通常は 95%, 定数 1.96
p	0.5		通常は, 誤差が最も大きくなる 50%(0.5)を用いる
標本誤差	3.0%	1.7%	上記の式から算出した値。5%以内が目安

3) 居住地の状況

居住地別の回答数を図 3 及び図 4 に示します。

下図に示す西部, 北部, 南部, 東部の地域に分けて集計・分析しました。

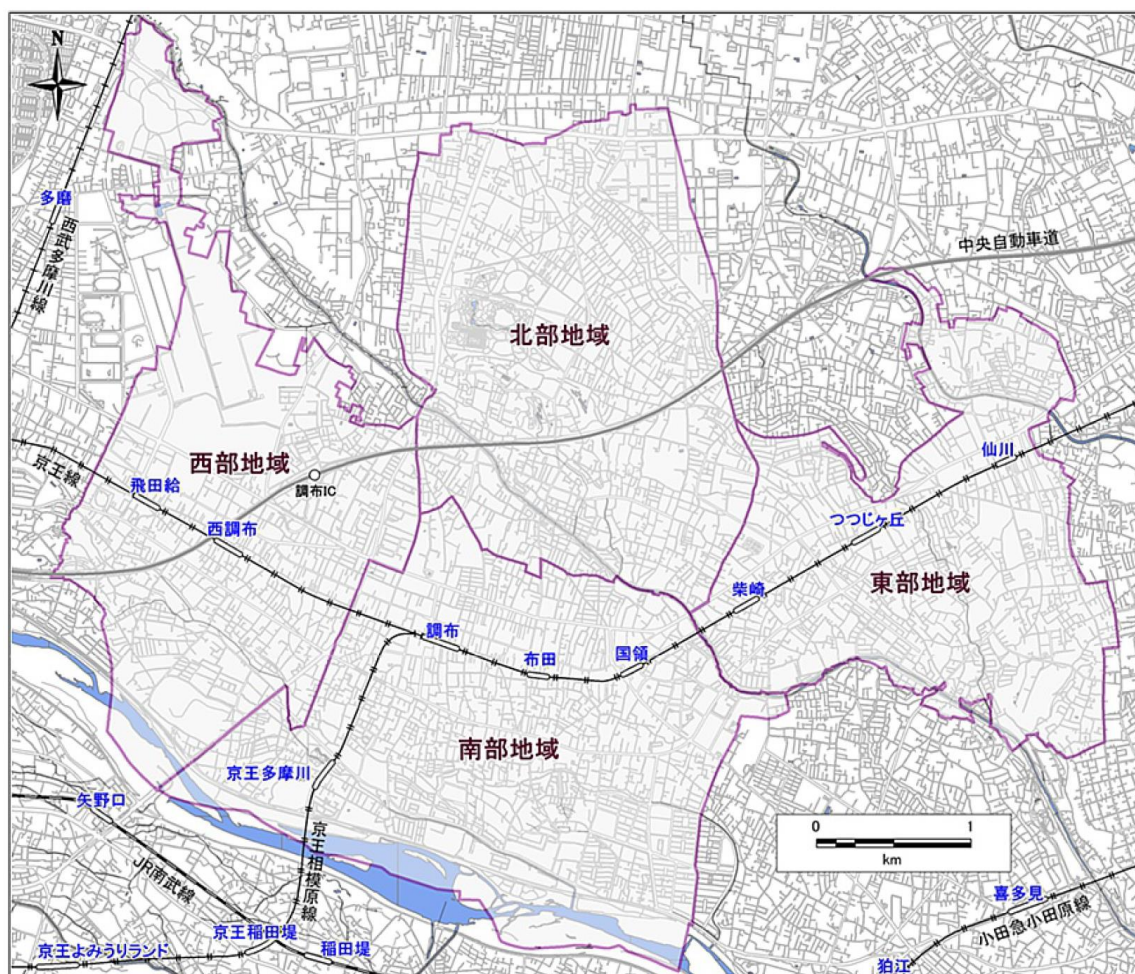


図 2 地域の分割範囲

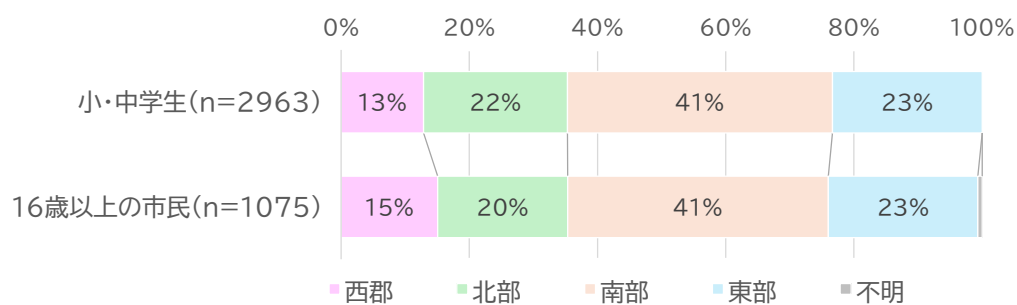


図 3 回答数の地域別構成割合

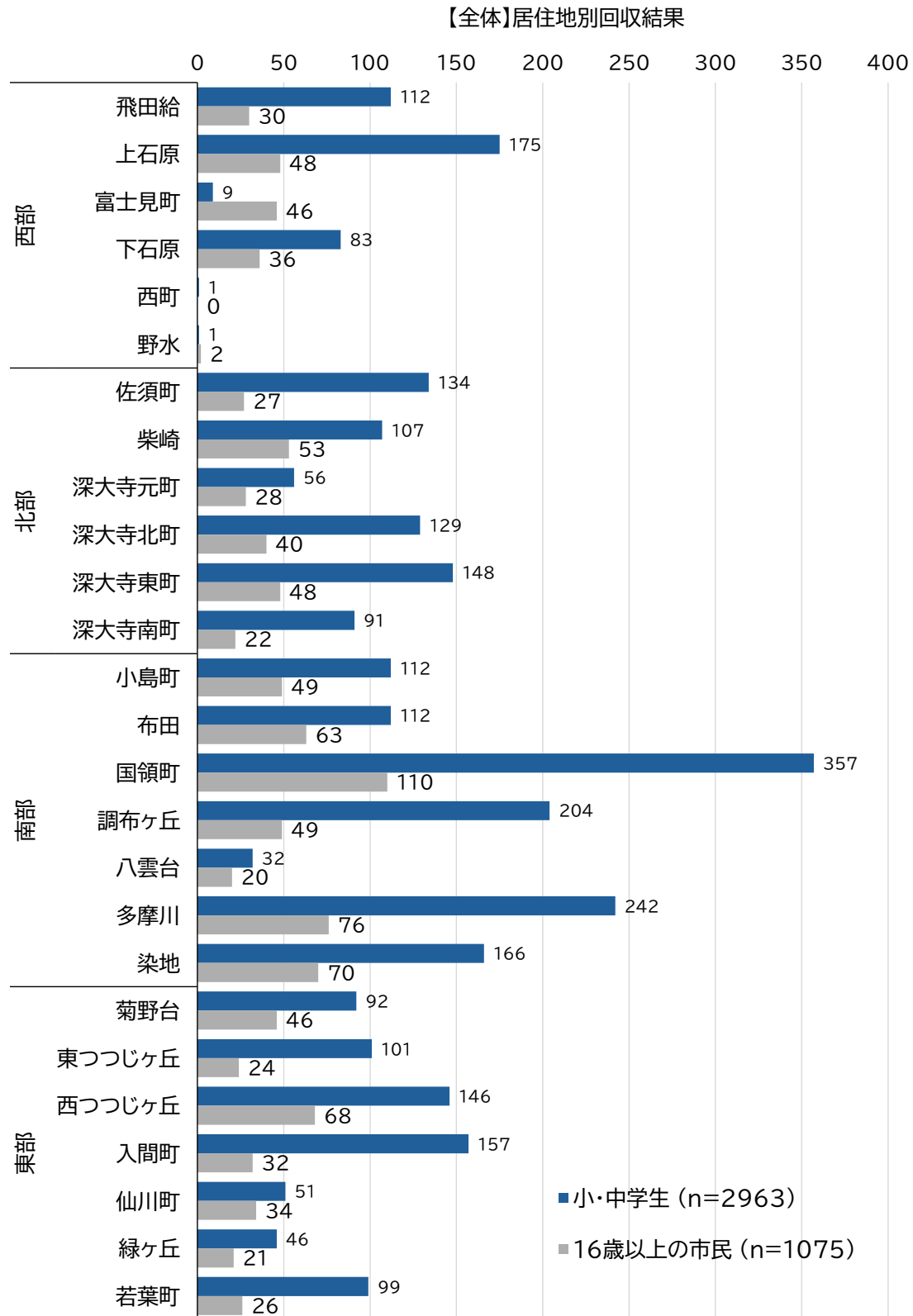


図 4 居住地別の回答数

4) 年代の状況

表 4 年代別(詳細)の回答数

	回答数	構成割合
小・中学生	2963	—
16歳以上	1,075	100%
16～19 歳	23	2%
20～29 歳	79	7%
30～39 歳	138	13%
40～49 歳	169	16%
50～59 歳	210	20%
60～69 歳	169	16%
70 歳以上	278	26%
無回答	9	1%

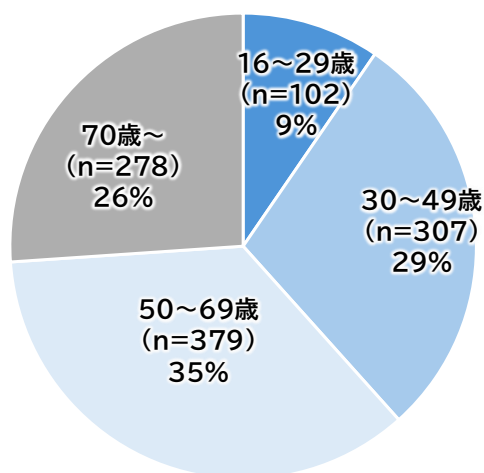


図 5 回答者の年代(統合)の割合 (対象:16歳以上の市民)

5) 同居家族の状況

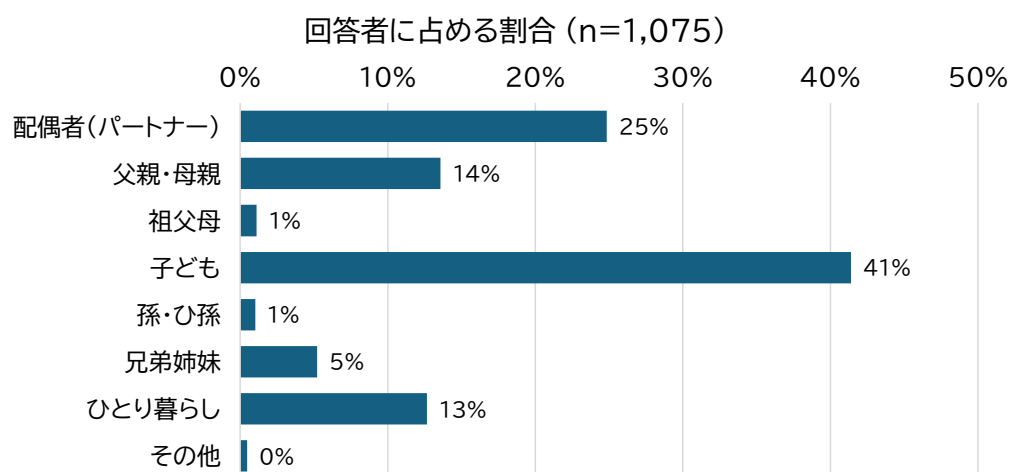


図 6 回答者の同居家族の状況(対象:16歳以上の市民)

(4) 調査結果の概要

1) 調布市内公営プール施設の利用状況、認知状況

設問①

調布市内にある公営プール(市民プール, 総合体育館屋内プール, 調和小学校屋内プール, 京王アリーナTOKYO)を利用したことがありますか。

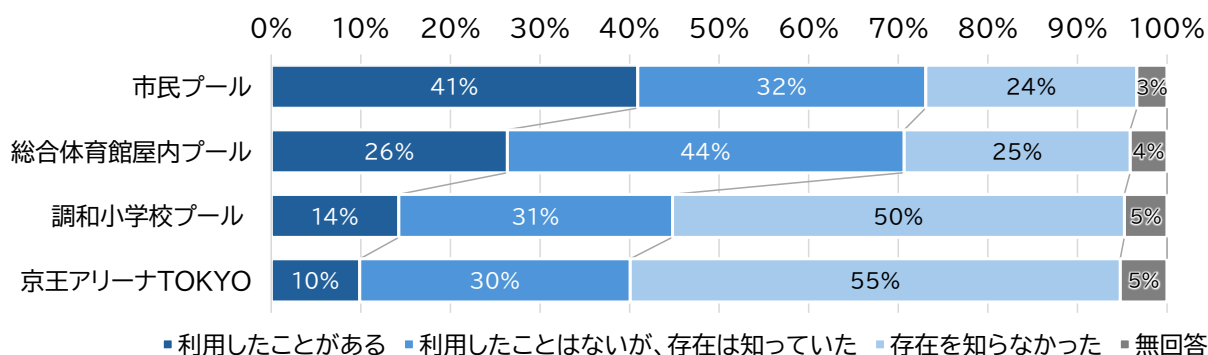
調布市内の公営プールの利用状況等を質問する前に, そもそも施設の存在が認知されていない可能性もあると考え, 施設の認知度について質問しました。

- 16歳以上の市民, 小・中学生ともに, 「利用したことがある」の割合が最も多いのが市民プールでした。年代別の傾向を見ると, 市民プールは小・中学生から 70 歳以上まで, 全世代で3～5割が「利用したことがある」と回答しています。居住地別の傾向を見ても, 市民プールは特に小・中学生は地域によらず「利用したことがある」が5割前後あります。他の3施設に比べ, 「存在を知らなかった」の回答割合も少ないため, 立地する南部に限らず, 市内全域の市民から利用されていたといえます。
- 総合体育館プール(北部), 調和小学校(東部), 京王アリーナTOKYO(西部)は, 立地する地域以外では, 「存在を知らなかった」の割合が多くなります。その傾向は, 特に小・中学生で顕著です。

【全体傾向】

<16 歳以上の市民>

【16歳以上の市民】公営プール施設の利用状況 (n=1,075)



<小・中学生>

【小・中学生】公営プール施設の利用状況 (n=2963)

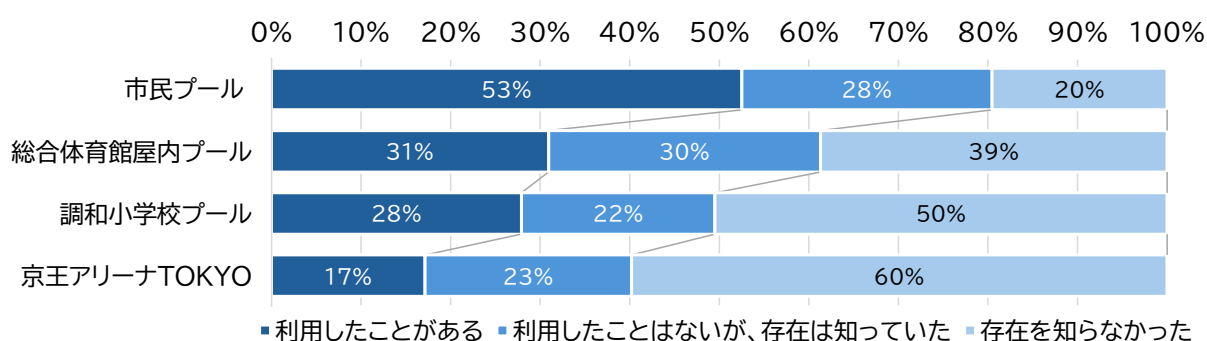
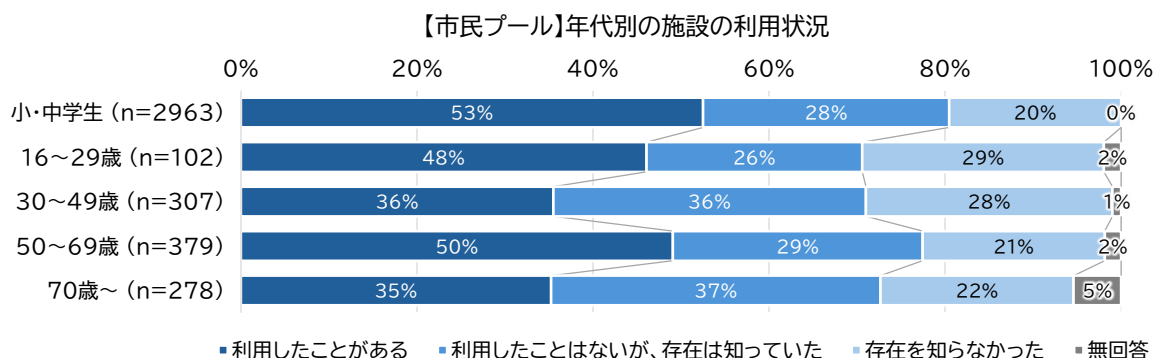


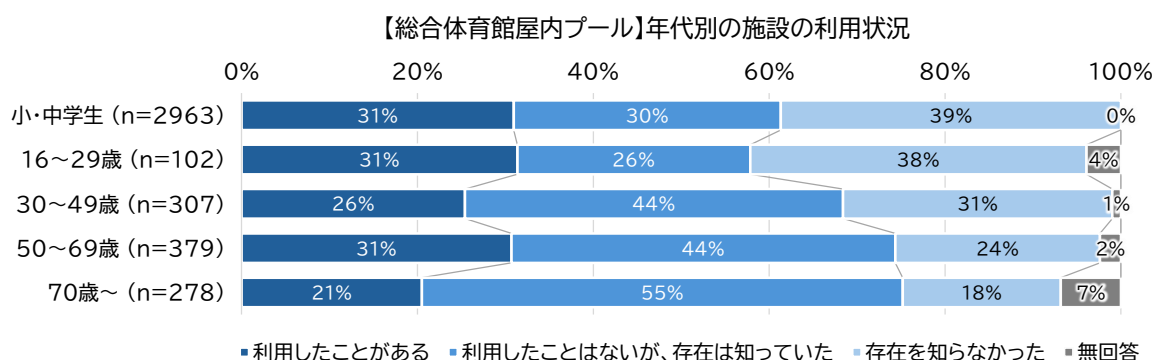
図 7 市内公営プールの認知度

【年代別の傾向】

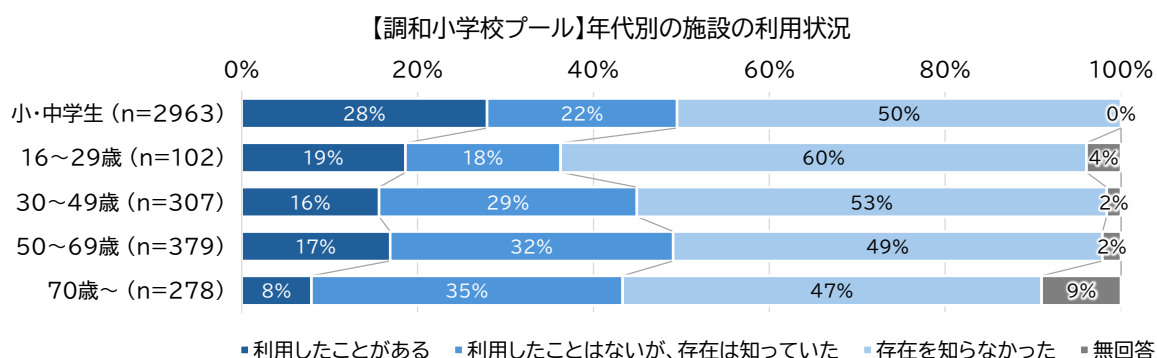
① 市民プール



② 総合体育館屋内プール



③ 調和小学校屋内プール



④ 京王アリーナTOKYO(武蔵野の森総合スポーツプラザ)

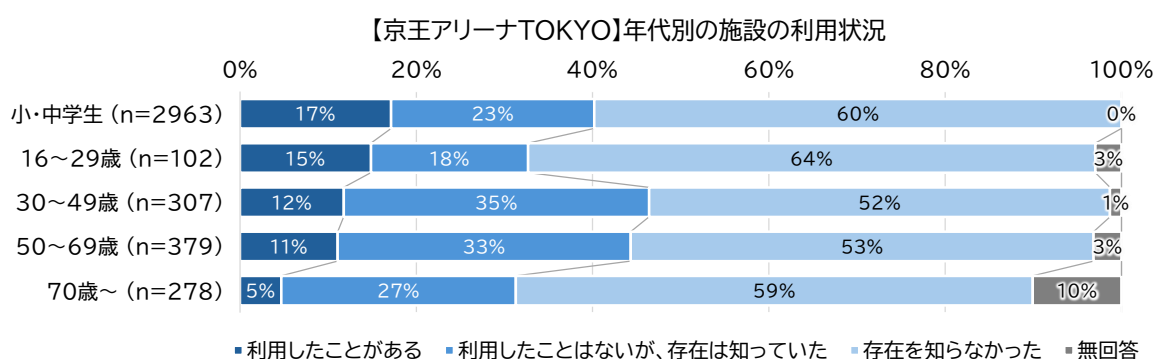


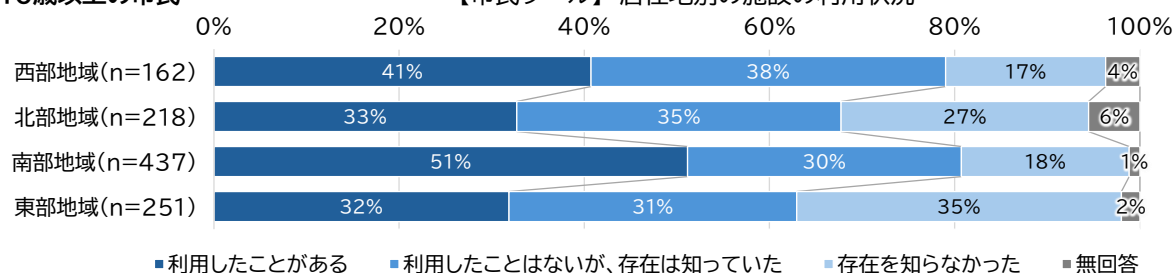
図 8 市内公営プールの年代別の認知度

【居住地別の傾向】

① 市民プール

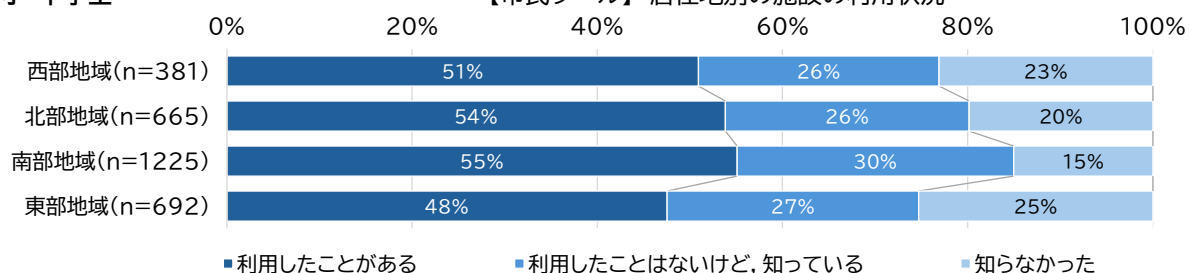
16歳以上の市民

【市民プール】居住地別の施設の利用状況



小・中学生

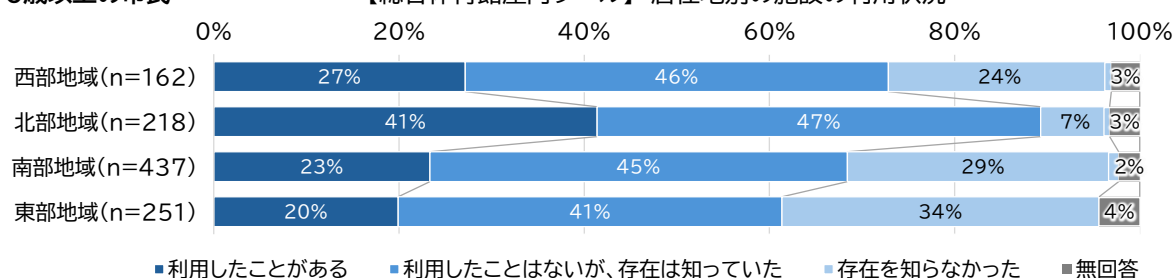
【市民プール】居住地別の施設の利用状況



② 総合体育館屋内プール

16歳以上の市民

【総合体育館屋内プール】居住地別の施設の利用状況



小・中学生

【総合体育館屋内プール】居住地別の施設の利用状況

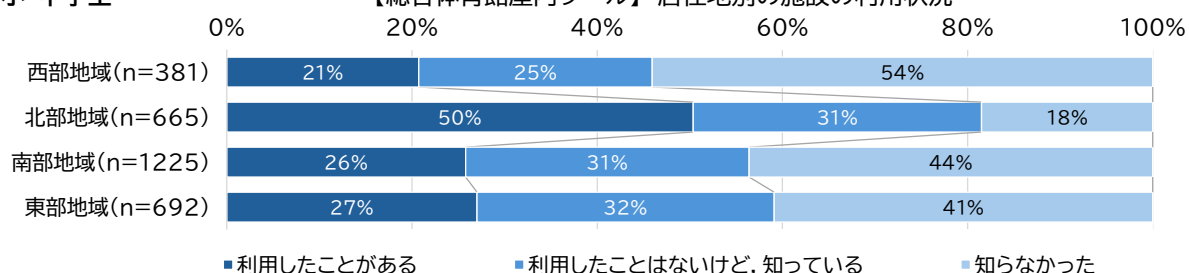
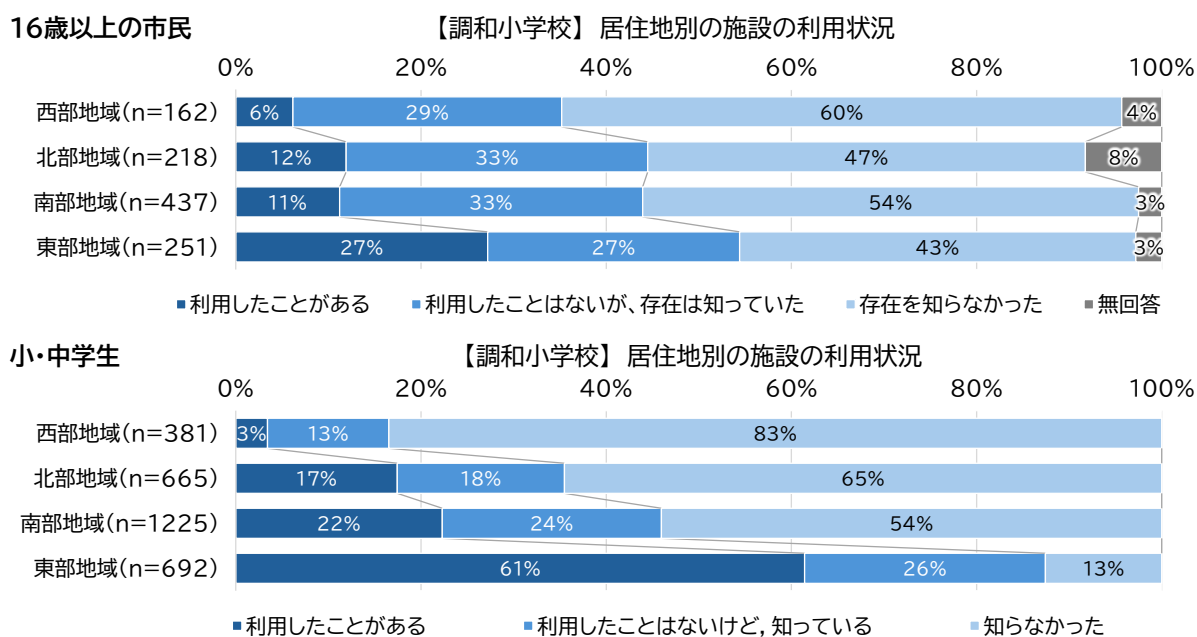


図 9(1) 市内公営プールの居住地別の認知度

③ 調和小学校屋内プール



④ 京王アリーナTOKYO(武蔵野の森総合スポーツプラザ)

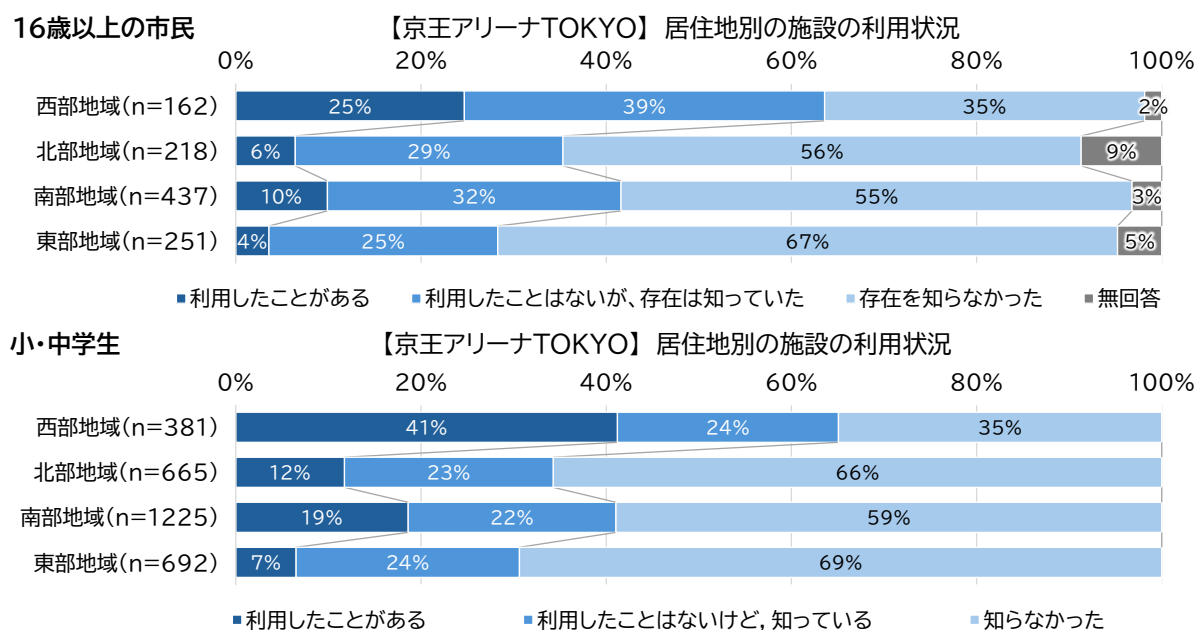


図 9(2) 市内公営プールの居住地別の認知度

設問②

直近の3年程度(コロナ禍後)の期間でプール施設(屋内・屋外,市内・市外,公営・民間を問わず)を利用したことがありますか。

設問③においてプール施設ごとの具体の利用状況を質問する前に,直近におけるプール施設の利用状況について質問しました。

- 直近3年間(コロナ禍後)でプール施設を「利用したことがある」は,市民の約3割,小・中学生の7割でした。
- 16歳以上の市民に限ると,30～49歳が約5割と前後の世代に比べ多く利用しています。

【全体傾向】

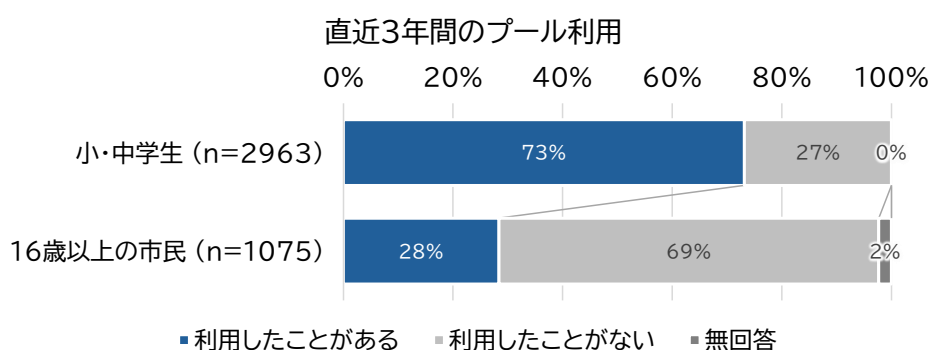


図 10 最近のプール施設利用の有無(全体)

【年代別の傾向】

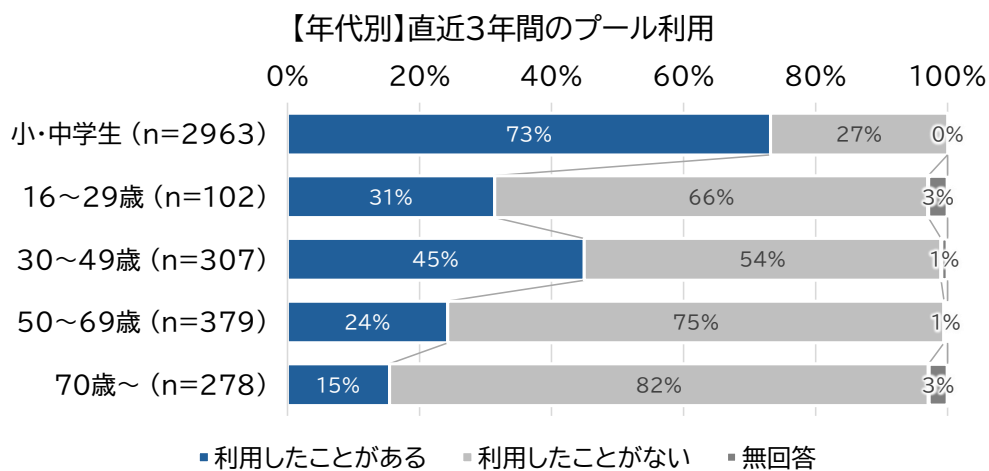


図 11 最近のプール施設利用の有無(年代別)

2) 直近3年間のプール施設の利用状況

設問③

設問②で「(直近の3年程度の期間で)利用したことがある」と回答した方にお伺いします。①利用したことがある施設,②主な利用目的,③施設を選んだ主な理由を施設ごとに回答ください。

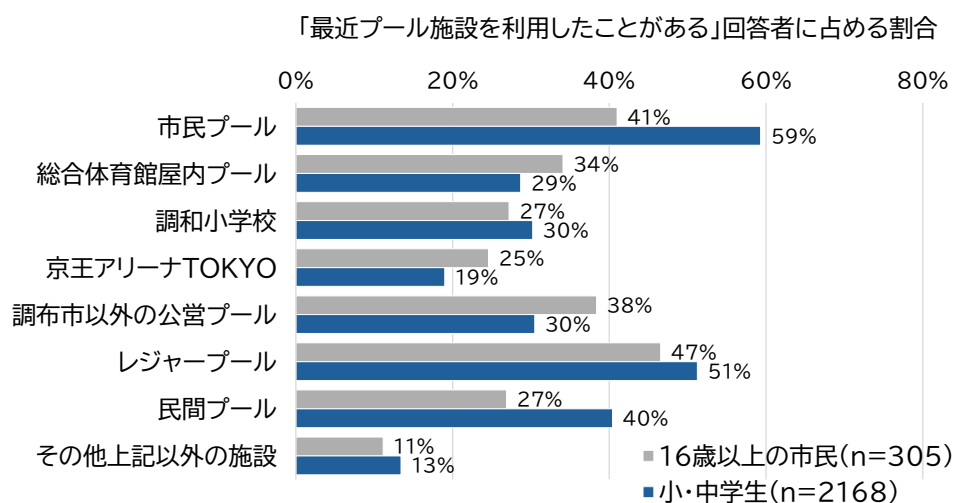
「プール施設を利用したことがある」回答者に対し、プール施設ごとの利用状況を利用目的や居住地等に着目して分析し、調布市民プールの特性を明らかにするとともに、調布市内のプール施設の全体最適を検討する際の参考資料とすることを目的に質問しました。

また、各プール施設の選定理由を把握・分析し、今後のサービス向上に向けた参考とすることを目的に質問しました。

- 近年の利用状況に限定すると、小・中学生、16歳以上の市民共に「レジャープール」が多いほか、市内の施設では「市民プール」が最も利用されています。
- 居住地別にみると、南部地域の市民は「市民プール」のほか、他の市内3施設も多く利用しています。西部地域の市民は「京王アリーナ TOKYO」を、北部地域の市民は「総合体育館プール」を、東部地域の市民は「調和小学校」を主に利用しています。
- 「調布市以外の公営プール」も多くの市民が利用しています。屋外プールでは「府中市民プール」(府中市)、「郷土の森総合プール」(府中市)、「稲城市民プール」(稲城市)、「狛江市民プール」(狛江市)など、屋内プールでは「SUBARU 総合スポーツセンター」(三鷹市)や「アクアブルー多摩」(多摩市)を多くの市民が利用しています。
- 家族構成に着目すると、いずれのプール施設も「同居家族に子どもあり」が「同居家族に子どもなし」に比べて多く利用されています。

① 利用したことがある施設

【全体傾向】



※ 調布市以外の公営プール: 【屋外】府中市民プール(府中市), 郷土の森総合プール(府中市), 稲城市民プール(稲城市), 狛江市民プール(狛江市) 等
【屋内】SUBARU 総合スポーツセンター(三鷹市), アクアブルー多摩(多摩市) 等

図 12 利用したことがある施設(全体)

【居住地別の傾向】

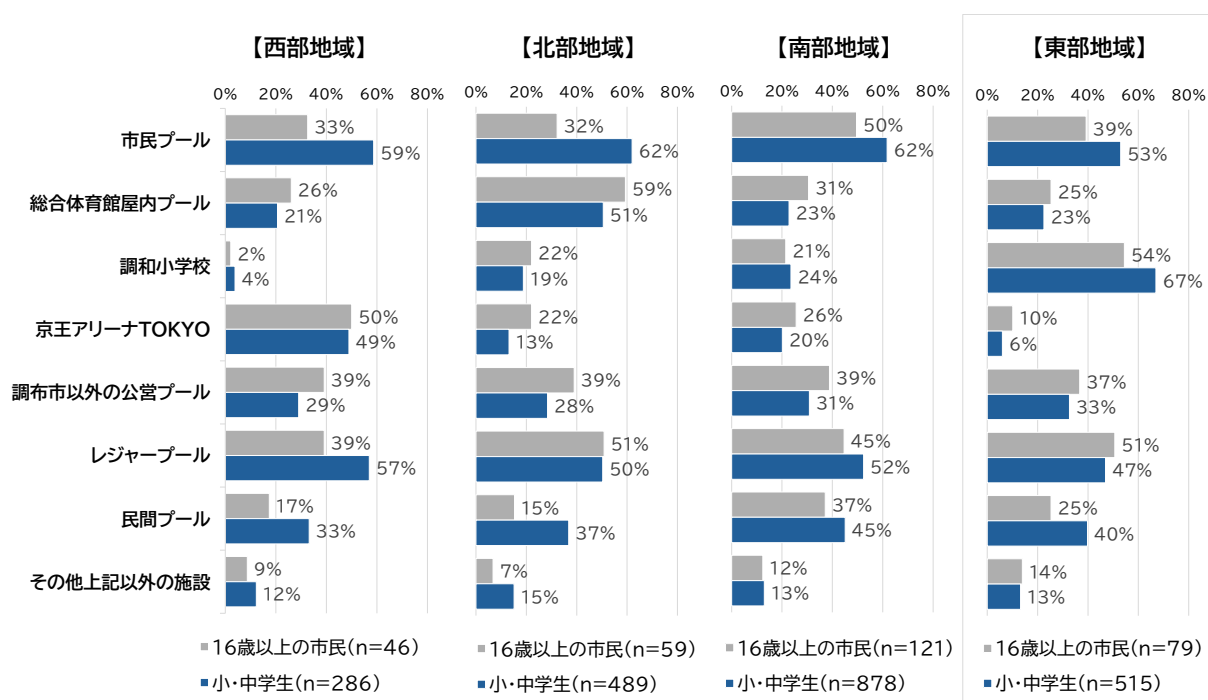


図 13 利用したことがある施設(居住地別1)

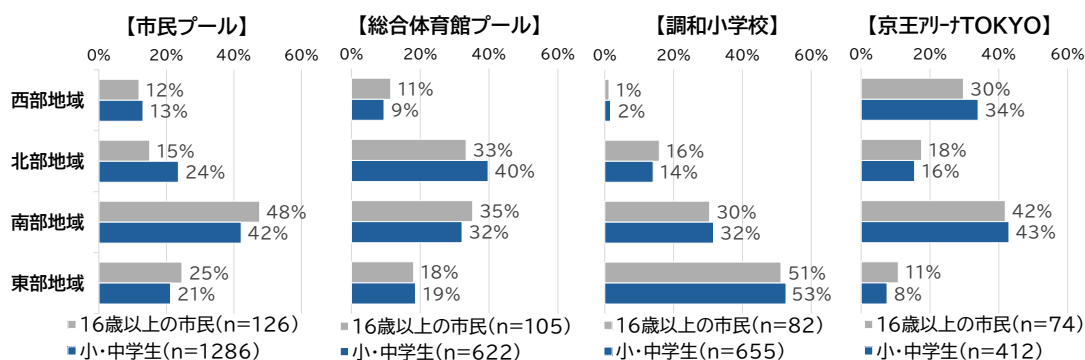


図 14 利用したことがある施設(居住地別2)

【同居家族別の傾向】

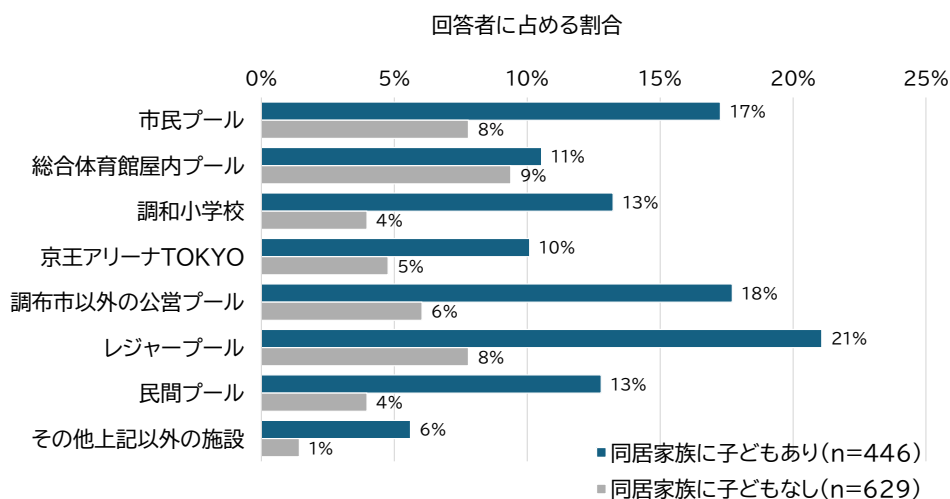


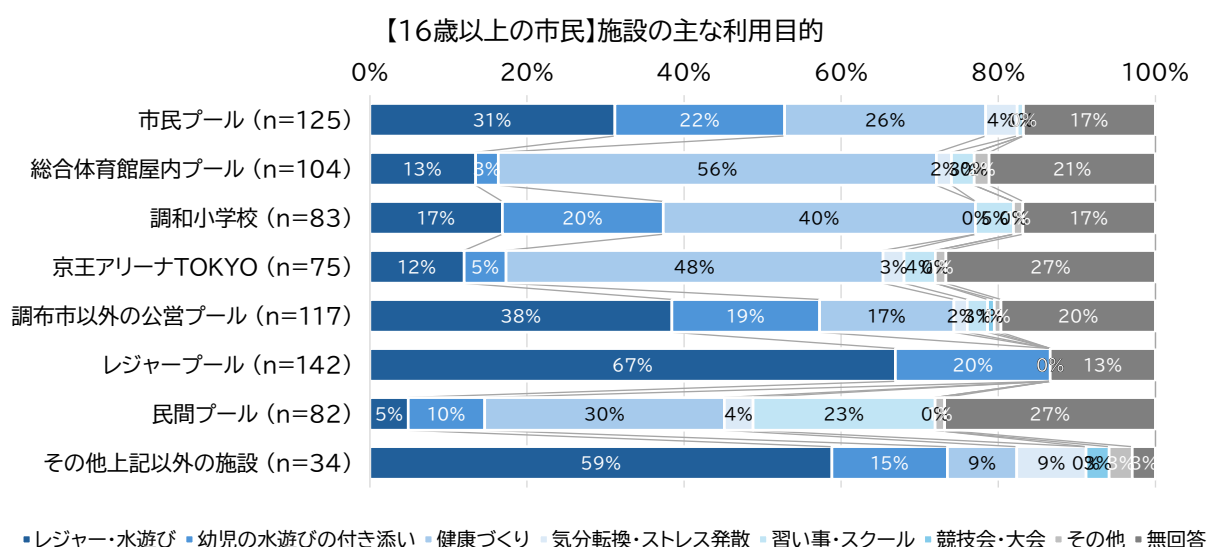
図 15 同居家族の子ども有無による施設の利用傾向(16歳以上の市民)

② 主な利用目的

- 16歳以上の市民を見ると、市民プールは「レジャー・水遊び」、総合体育館と調和小学校、京王アリーナTOKYOは「健康づくり」を主な目的として利用されています。
- 小・中学生は、「習い事・スクール」で通う民間プール施設以外は、ほとんどの施設の利用目的は「レジャー・水遊び」です。
- 幼児用プールのある市民プールと調和小学校では、「幼児の水遊びの付き添い」も2割弱あります。

【全体傾向】

<16 歳以上の市民>



<小・中学生>

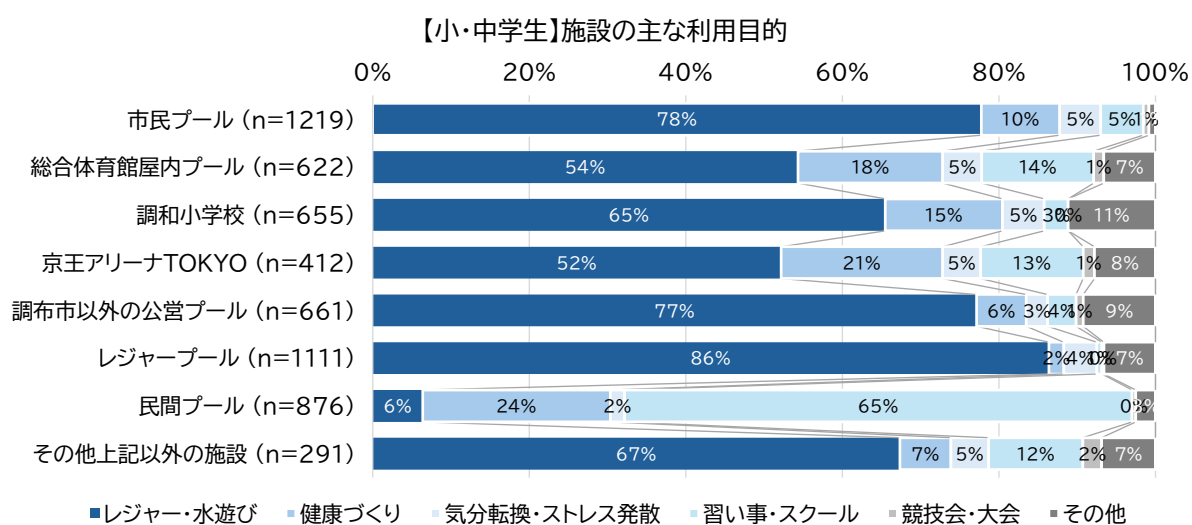


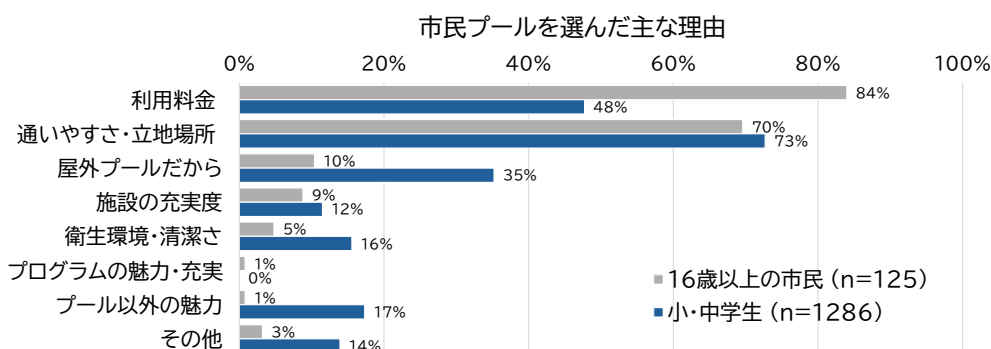
図 16 プール施設ごとの主な利用目的(全体)

③ 利用するプール施設を選んだポイント

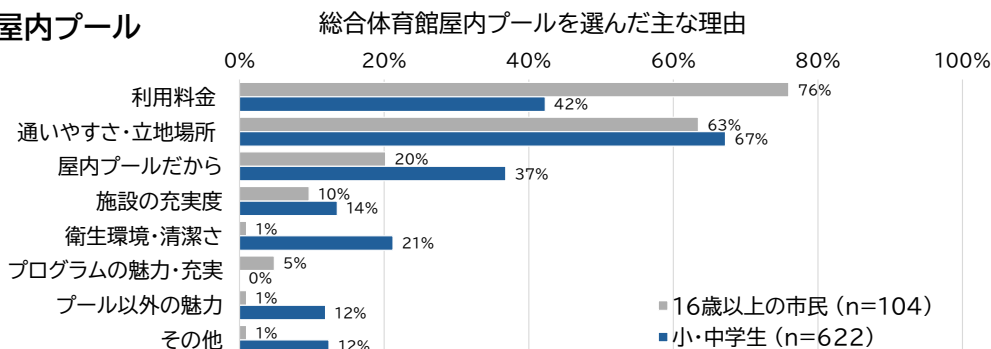
- 市内の公営プール4施設いずれについても、小・中学生、16 歳以上の市民ともに、「利用料金」「通いやすさ・立地場所」を重視して選んでいます。
- 小・中学生は、「屋外プールだから」市民プール(35%)を、「屋内プールだから」総合体育館(37%)、調和小学校(51%)、京王アリーナTOKYO(44%)を選んでいます。
- 京王アリーナTOKYOは、「施設の充実度」「衛生環境・清潔さ」も多くあります。

【全体傾向】

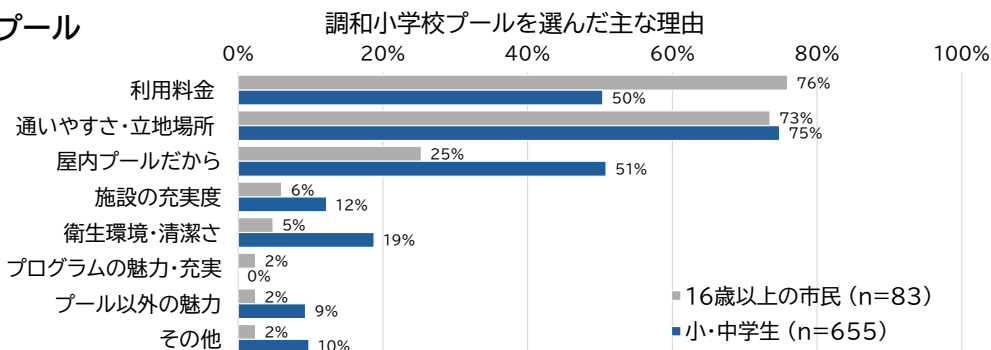
市民プール



総合体育館屋内プール



調和小学校プール



京王アリーナTOKYO

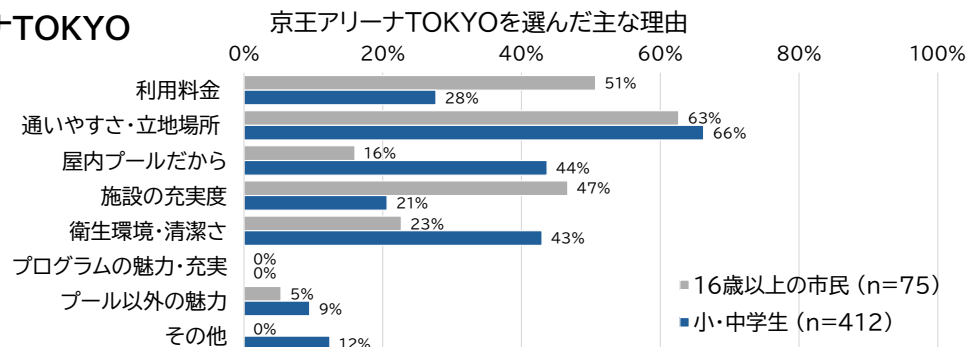
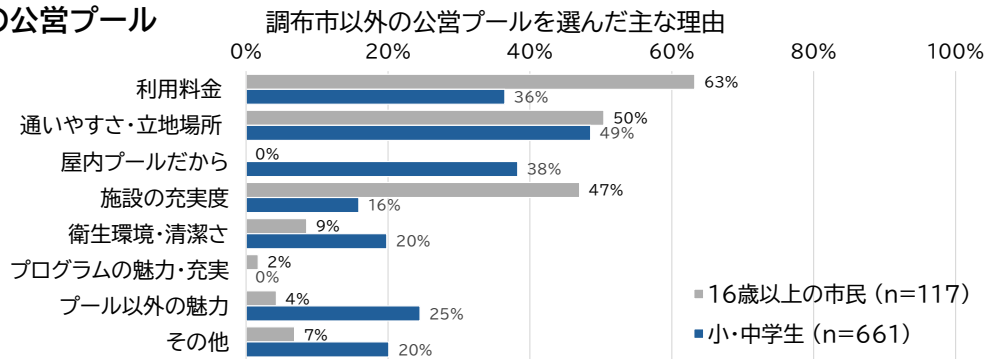
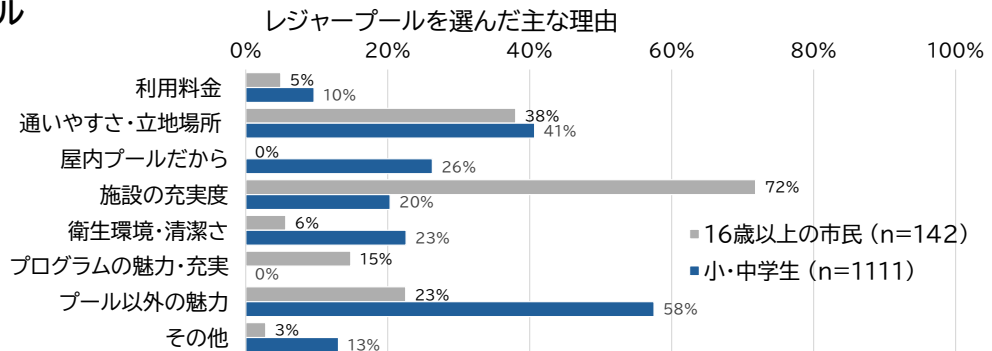


図 17(1) プール施設を選んだ主な理由(全体)

調布市以外の公営プール



レジャープール



民間プール施設

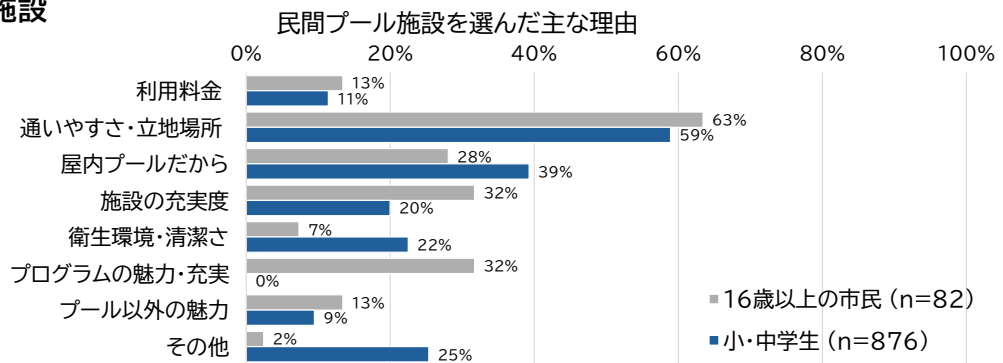
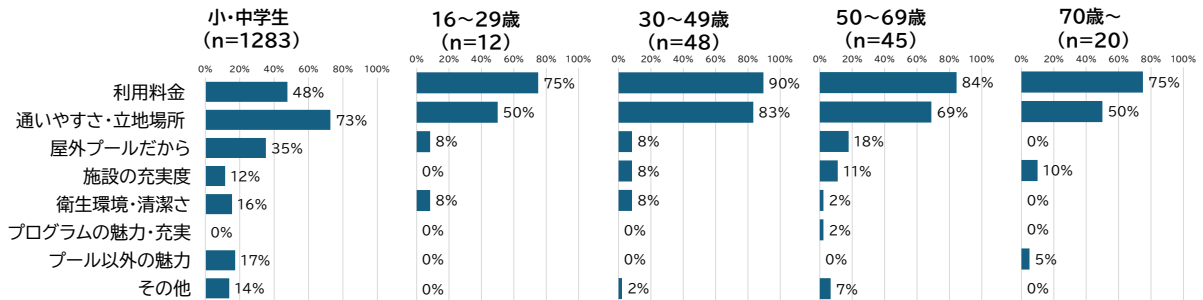


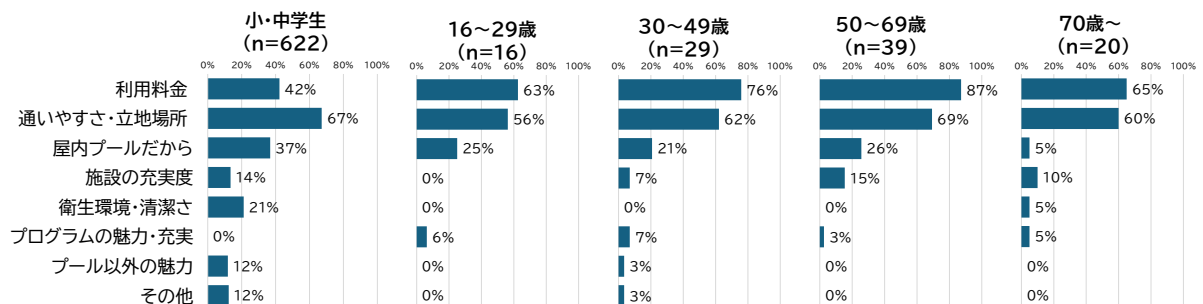
図 17(2) プール施設を選んだ主な理由(全体)

【年代別の傾向】

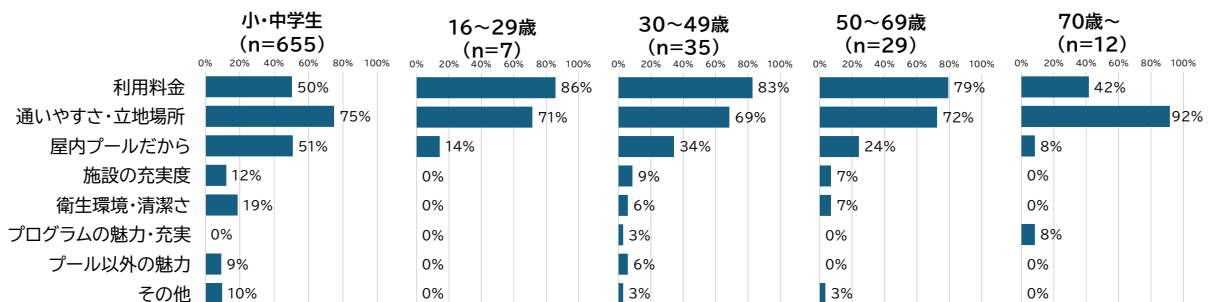
市民プール



総合体育館屋内プール



調和小学校プール



京王アリーナTOKYO

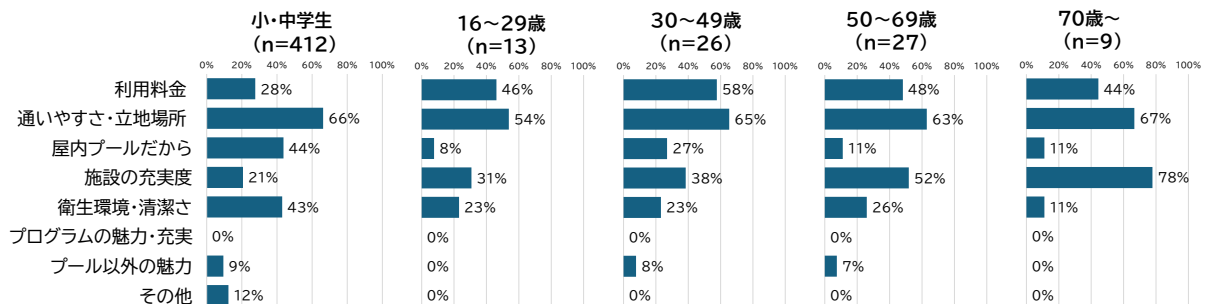


図 18 プール施設を選んだ主な理由(年代別)

3) 直近3年間でプール施設を利用しなかった理由

設問④

設問②で「(直近の3年程度の期間で)利用したことがない」と回答した方にお伺いします。その理由を教えてください。(3つまで選択可)

プール利用の妨げとなっている要因を把握し、今後の施設整備や利用促進策の参考とすることを目的に質問しました。

- 小・中学生, 16 歳以上の市民ともに「特に理由はない」が最も多い。次いで, 小・中学生が「プール施設に魅力を感じない」, 「泳ぐのが苦手」, 「自宅から遠い」, 16 歳以上の市民が「泳ぎたいがきっかけがない」, 「施設の場所を知らない」が多い。
- 上記のほか, 年代別にみると, 小・中学生の約 26%, 30~49 歳の主に子育て世代に該当する年代の約18%が「自宅から遠い」を理由としてあげています。

【全体傾向】

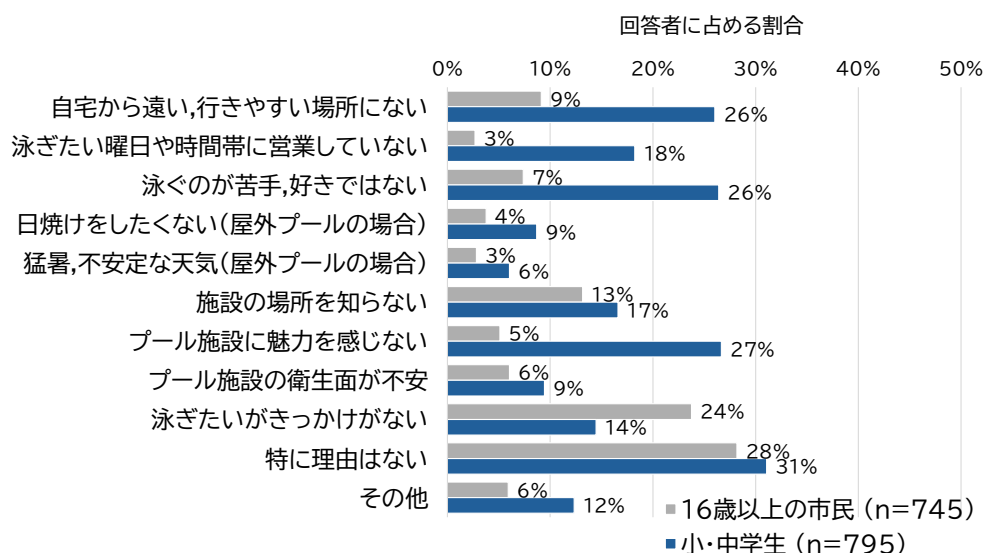


図 19 プール施設を利用しない理由(全体)

【年代別の傾向】

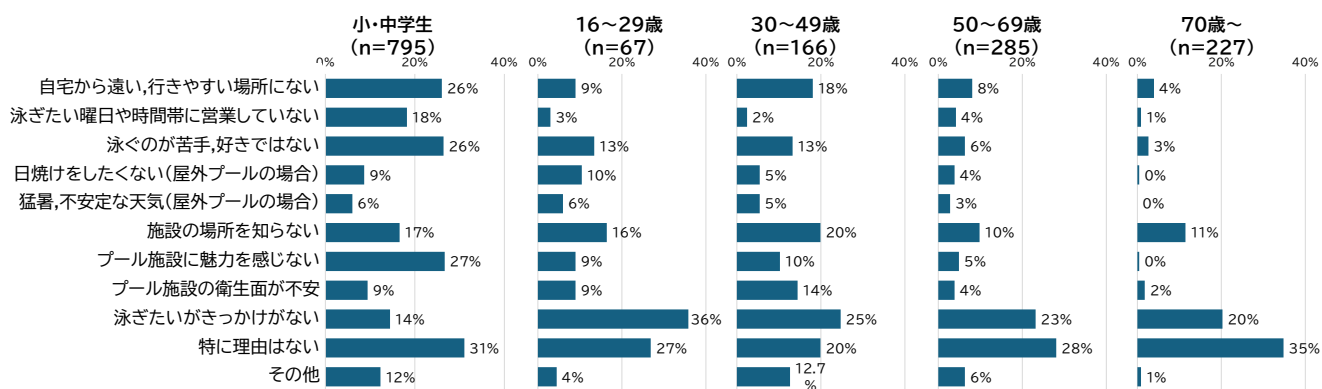


図 20 プール施設を利用しない理由(年代別)

【居住地別の傾向】

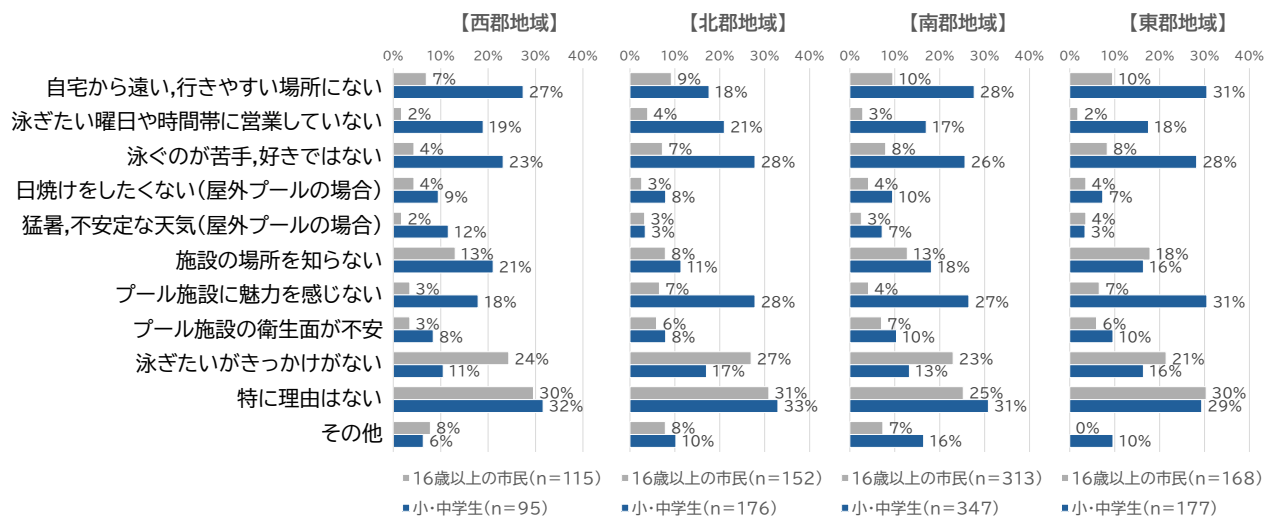


図 21 プール施設を利用しない理由(居住地別)

【同居家族別の傾向】

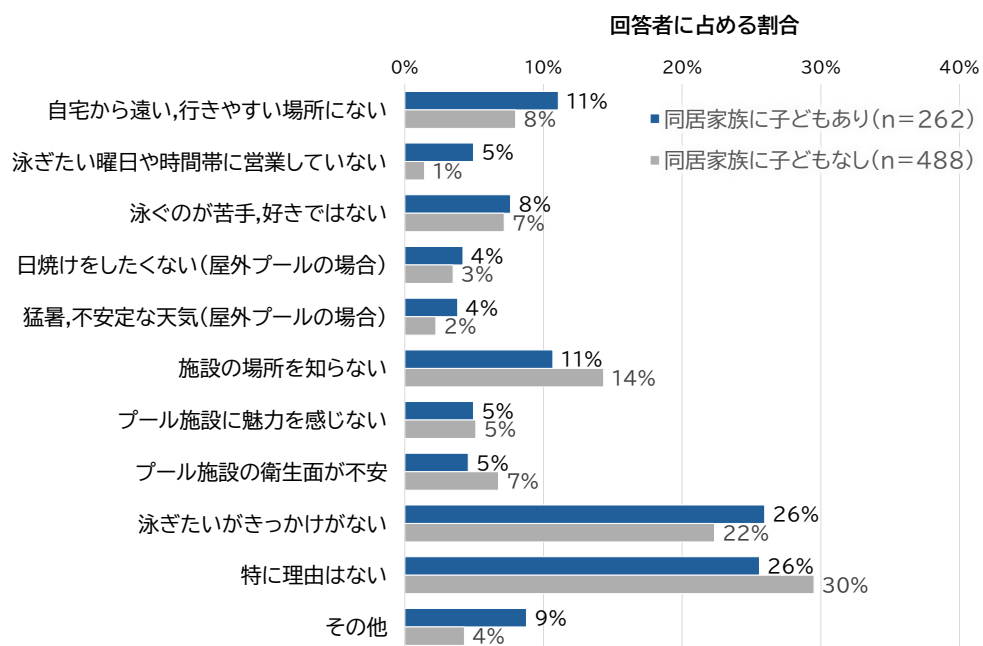


図 22 プール施設を利用しない理由(同居家族の子ども有無:16 歳以上の市民)

4) 公営プールの役割として期待すること

設問⑤

公営プールの役割として期待することは何ですか。
あなたのお考えに一番近いものを一つ選んでください。

市民が公営プールに期待する役割を把握し、調布市の公営プールの全体最適を検討する際の参考とすることを目的に質問しました。

- 小・中学生は、「レクリエーション・レジャーの場の提供」(44%)、16歳以上の市民は「健康増進, 体力向上の場の提供」(46%)が最も多い回答でした。
- 年代別にみると、30～49歳の子育て世代に該当する年代が「レクリエーション・レジャーの場の提供」を前後の年代よりも多く回答しています。50歳以上では、「健康増進, 体力向上の場の提供」の割合が5割前後を占めています。
- 家族構成に着目すると、「同居家族に子どもあり」では、「レクリエーション・レジャーの場の提供」の回答が「子供なし」に比べて11ポイント増えています。

【全体傾向】

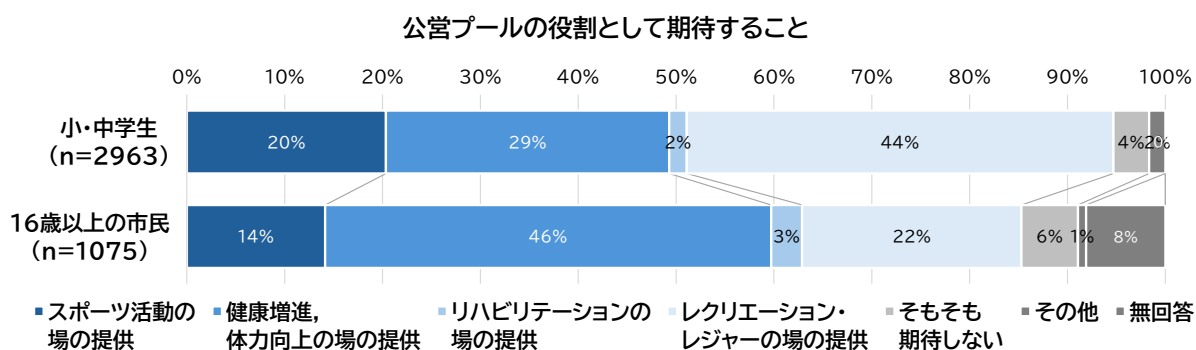


図 23 公営プールに期待する役割(全体)

【年代別の傾向】

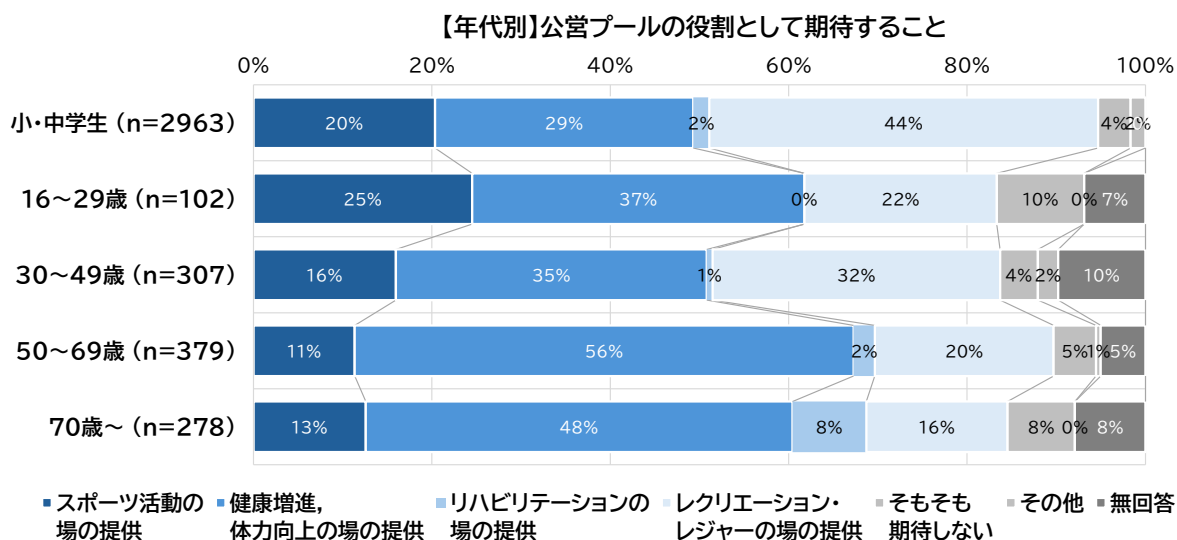


図 24 公営プールに期待する役割(年代別)

【同居家族別の傾向】

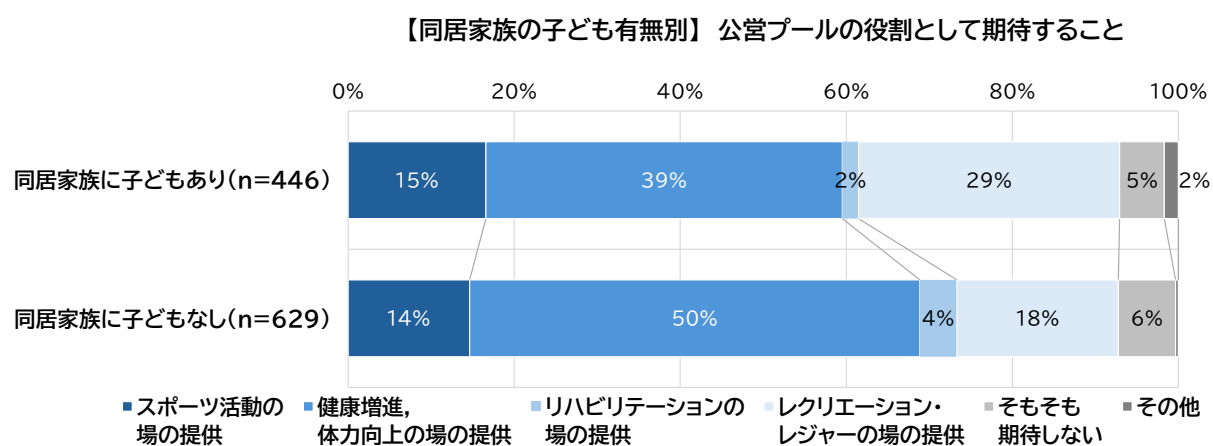


図 25 公営プールの期待する役割（同居家族の子ども有無:16 歳以上の市民）

5) 自由意見

設問⑥

調布市の公営プール(市民プール, 総合体育館プール, 調和小学校屋内プール)に対する意見や要望などがありましたら, 下記にご記入ください。

設問⑥までで把握できていない, 想定外の意見や多様な意見を拾い上げることを目的に公営プールに対する意見や要望を自由に記述してもらいました。

主要なテーマ別の意見概要を表 5 に示します。

<市民プールや公営プールの必要性について>

- **【市民プールの存続・再開希望】** 多くは南部地域, 50 歳以上のかたからの意見でした。「市民プールの再開, 存続を切望する」, 「教育・育成・健康の観点から子どもたちのために不可欠」という内容が多くありました。
- **【市民プールは不要・廃止】** 多くは南部地域のかたからの意見でした。理由として, 「市の財政難や費用対効果を懸念し, 廃止・統廃合を求める」, 「猛暑・気候変動の影響があり, 屋外プールは時代に合わない」, 「利用頻度やニーズが変化しているため, 縮小や廃止・撤去を容認」という内容が多くありました。
- **【公営プールは必要】** 公営プールには安価で気軽に利用できる価値があり, 民間施設への代替には限界があるため, 公営プールの維持・存続を求める内容が多くありました。

<市民プールや公営プールに求める機能について>

- **【屋内化・通年利用の要望】** 「猛暑や気候変動の影響を考え屋内プール化を希望する」, 「主に健康増進を目的とした日常利用のため, 通年利用できる屋内化を希望する」という内容が多くありました。
- **【子供向けの施設・設備, 安全・安心】** 「子ども・幼児が楽しめるプール施設・設備の充実」, 「レジャー性の高い設備(スライダー・流れるプールなど)の導入希望」, 「家族や保護者も安心・快適に利用できる配慮(更衣室・日陰・休憩所など)」という内容が多くありました。

<市民プールや公営プールで改善して欲しいこと, その他>

- **【衛生面・老朽化の不満, 改善要望】** 「清潔で衛生的な施設環境を求める」, 「老朽化による施設の使いづらさへの不満, 改善要望」, 「屋外での過酷な環境に対し, 快適に過ごすための施設整備の充実」という内容が多くありました。
- 上記のほか, **【アクセス・駐車場・立地改善】**, **【バリアフリー・全世代対応】**, **【混雑緩和・利用時間の工夫】**, **【料金・利用制度の見直し】**, **【広報・情報発信不足】**に関する意見もいただきました。

表 5 テーマ別の意見の概要（16 歳以上の市民）

意見テーマ	主な意見と概要
市民プールの 存続・再開希望	市民プールの「存続」・「再開」を希望 ・「市民プールを継続してほしい」 ・「一刻も早く再開してほしい」 ・「なくさないでほしい」 ・「改修してでも再開を」 ・「25mのプールだけでも利用したい」 など
	教育・育成・健康の観点から、子どもたちのために必要な施設 ・「子どもたちに屋外プールを経験させたい」 ・「子ども達の体力向上のために必要」 ・「健全な遊び場」 ・「夏の遊び場がなくなるのは困る」 ・「学校プールが使えない中、必要性が高まっている」 など
市民プールは 不要・廃止	市の財政難や費用対効果を懸念し、廃止・統廃合を求める ・「修繕費・維持費が高すぎる」 ・「税金の無駄」 ・「他のことに使ってほしい」 ・「市の財政状況を考えると優先順位が低い」 ・「運営や改修に多額の費用がかかるなら廃止してよい」 など
	屋外プールは時代に合わない(猛暑・気候変動) ・「猛暑が多く熱中症のリスクが高い」 ・「屋外プールは気候に左右されすぎて非効率」 ・「今後も異常気象が想定される中、時代にそぐわない」 ・「屋外は危険」 ・「使用機会が限られる割にコストがかかる」 など
	利用頻度やニーズが変化しているため、縮小や廃止・撤去を容認 ・「利用者が少ないのでは」 ・「スイミングスクールや他の娯楽で代替可能」 ・「屋外プールは夏季しか使わない」 ・「公営プールは一つあれば十分」 など
公営プールは必要	安価で気軽に利用できる「公営」プールの価値、民間施設への代替には限界 ・「安く利用できてありがたい」 ・「民間プールは高額」 ・「気軽に行ける場所として必要」 ・「商業施設ではなく、市民のための施設として存続を」 ・「健康づくりや運動の場としても重要」 など
屋内化・通年利用 の要望	屋内プール化を希望(猛暑・気候変動) ・「市民プールを屋内化してほしい」 ・「異常気象や猛暑で屋外はもう無理」 ・「天候に左右されない屋内型が良い」 ・「日焼けや熱中症の心配が少なくて安心」 ・「防災面も兼ねた屋内プールの検討をしてみてもは」 など
	通年で利用できる環境の整備(主に健康増進目的, 日常利用) ・「冬も利用できる室内プールがありがたい」 ・「健康づくり・体力づくりに通年利用が必要」 ・「スイミングスクールは高額なので代替になる施設を」 ・「子ども向けの屋内プールがあればいい」 など

意見テーマ	主な意見と概要
子ども向けの施設・設備, 安全・安心	子ども・幼児が楽しめるプール施設・設備の充実 ・「幼児も安心して遊べる浅いプールや遊具を導入してほしい」 ・「小さい子も安全に利用できるプールにほしい」 ・「乳幼児・小学生向けの水遊びスペースがほしい」 ・「じゃぶじゃぶ池のような施設があるとよい」 など
	レジャー性の高い設備(スライダー・流れるプールなど)の導入希望 ・「ウォータースライダーや流れるプールを設置してほしい」 ・「世田谷や稲城のようなレジャー寄りの施設が良い」 ・「プールに楽しさを」 ・「すべり台・滝などがあると子供が喜ぶ」 など
	家族や保護者も安心・快適に利用できる配慮（更衣室・日陰・休憩所など） ・「性別の違う親子でも安心して着替えられる更衣室」 ・「見守れるベンチや日陰, 休憩スペースが必要」 ・「小さい子連れでも気軽に利用できる施設に」 など
衛生面・老朽化の 不満, 改善要望	清潔で衛生的な施設環境（更衣室・シャワー・ロッカー等） ・「更衣室がとても汚いので改善してほしい」 ・「清潔なら行きたいと思える」 ・「床の掃除, ロッカーの臭い対策」 ・「水質や塩素の管理」 など
	老朽化による施設の使いづらさへの不満, 改善要望 ・「設備が古い」 ・「ロッカーの鍵が壊れている」 ・「調和小学校プールがまぶしい・狭い・不衛生」 ・「更衣室が狭い・使いづらい」 など
	屋外での過酷な環境に対し, 快適に過ごすための施設整備の充実 ・「プールサイドに日陰がほしい」 ・「雨宿りできるスペースがほしい」 ・「熱中症対策が必要」 など
アクセス・駐車場・ 立地改善	アクセス性の改善（駅近・中心部・公共交通の利便性 など） ・「市の中心部にあると通いやすい」 ・「調布駅から近い立地にプールを」 ・「駅近くに公営プールが欲しい」 ・「仕帰りに駅からアクセスしやすい交通機関のルートがあれば利用したい」 など
	駐車場の整備・拡充 ・「駐車場を無料にほしい」 ・「広い駐車場が必要」 ・「駐車場スペースが少ないため不便」 ・「提携でも良いので, 駐車場を充実してほしい」 など
	自宅や生活圏に近い施設 ・「身近に公営プールがあってほしい」 ・「距離的に遠くない調布市民プールによく行った」 ・「家の近くの調和小学校プールは今後利用したい」 ・「家から遠いので利用したことがない」 など
バリアフリー・ 全世代対応	高齢者も安心して使えるプールにほしい ・「プールは, 高齢者の健康増進を促進できる」 ・「高齢者向けの公営プールがあったらよい」 ・「若者から高齢者も使えるような屋内施設がよい」 ・「年齢問わず健康や趣味のために安心して泳げる場を」 など

意見テーマ	主な意見と概要
	障がい者や身体の不自由な人も利用できる施設を ・「車いす利用の身体障害者でも利用できるよう配慮を」 ・「障がい者が利用しやすい環境をつくってほしい」 ・「体の不自由な子供や保護者も安心して水泳や水遊びができる場を」 など 誰もが気軽に安心して使える、公共性の高いプールを ・「老若男女気軽に利用できる施設であってほしい」 ・「市民が使いやすいプールをお願いしたい」 ・「小学校のプールは親や兄弟と一緒に入れない。性別・年齢問わず安価に利用できる場が必要」 など
混雑緩和・ 利用時間の工夫	利用時間・対象者・混雑を考慮した「柔軟な運営」への要望 ・「夏場の小学校貸し出しによる利用不可時間を減らしてほしい」 ・「子どもと大人、目的別に時間やエリアを分けてほしい」 ・「女性専用や年齢層ごとの時間設定があるといい」 ・「早朝や夜間など、時間帯の拡大や多様化を希望」 など
	混雑状況の可視化やシステム化による利便性向上 ・「リアルタイム混雑状況を Web 等で確認できるようにしてほしい」 ・「混雑緩和のためのシステム化をしてほしい」 ・「気軽に利用できる一方、他者との接触や混雑が不安」 など
	多様なニーズに対応する目的別プログラムやコースの設置 ・「ウォーキングレーンを平日夜にも設置してほしい」 ・「大人向けの中～上級コースを土曜日に設定してほしい」 ・「様々なプログラムがあるとよい」 ・「水泳教室がほしい」 など
料金・利用制度の 見直し	手頃な利用料金, 安価な市民サービスへの要望 ・「年配の団体や市民が利用しやすいように料金を安くしてほしい」 ・「低料金で利用できる健康増進施設が欲しい」 ・「低料金が魅力」 ・「利用料金が手頃で助かる」 など
	利用しやすい料金体系, 利用料金の支払い方法の改善など利便性の向上を ・「定期券や通い放題制度を希望」 ・「スマホでの支払いができるとよい」 ・「調和小プールの 1 時間料金はありがたい」 など
	市民優先や利用範囲の公平性について ・「市民優先での利用を希望」 ・「市民サービスが低下しないよう、近隣市の施設利用補助も検討してほしい」 ・「調和小へ 23 区在住の孫を連れていった時、入場利用を断られた。世田谷区などは自由に利用できる。」 など
広報・情報発信 不足	市民への情報発信・PR の強化を要望 ・「もっと市民にアピールした方がよい」 ・「宣伝を増やしてほしい」 ・「市報などで写真や具体的な利用方法を詳しく掲載してほしい」 ・「イベントや利用状況などの情報発信を」 など
	利用方法や施設内容の分かりやすい案内・紹介の充実 ・「プールの場所や利用方法が分かりにくいので、詳しく紹介してほしい」 ・「こどもでも利用しやすいかなど、利用者目線の情報提供が欲しい」 ・「地図やアクセス情報、施設の設備紹介などの充実を」 など

意見テーマ	主な意見と概要
	多様な利用者に配慮した案内の充実 ・「英語対応の案内があると良い」 ・「若者からお年寄りまで、幅広い層が利用しやすくなるための情報提供が欲しい」 ・「交通手段の案内(バス停や AI オンデマンドなど)も含めて分かりやすくしてほしい」など
その他	市民プールの存続や運営に対する期待と不安 ・「維持管理が大変そうで心配している」 ・「市の将来の財政予測を踏まえて実施して下さい」 ・「平日は利用者に対して監視員が多いと感じる」 など
	利用しやすい雰囲気や楽しく気軽に通える施設を望む ・「調和小プールのルールが厳しすぎ。監視員がすぐ注意するので楽しめない。」 ・「気軽に通える雰囲気があれば良い」 ・「機会があれば利用したい」 ・「今後使ってみたい」 など
	子ども向けの施設イメージと利用者層の多様化について ・「子どもの遊び場のイメージが強く、大人や高齢者には利用しづらい印象」 ・「施設の多様な活用(例:フィットネスパークや屋外シネマなどへの転用検討)」 ・「泳ぐだけでなく健康ランドのような施設にしてほしい」 など

(注)調査結果のグラフ及び表における回答比率は、小数点以下第1位を四捨五入して表示しているため、百分率の合計が 100%にならない場合や、内訳の合計が、表示されている値と一致しない場合があります。

(5) アンケートの総括

1) 公営プールの認知状況について

- 「市民プール」は、地域によらず全市的に認知されているといえます。
- 一方、「総合体育館プール」(北部)、「調和小学校」(東部)、「京王アリーナTOKYO」(西部)は、それぞれが立地する地域以外では、「存在を知らなかった」の割合が多く、その傾向は、特に小・中学生で顕著です。

2) 公営プールの利用状況について

- コロナ禍以降に限定すると、16歳以上の市民の約3割、小・中学生の約7割がプール施設を利用しています。市内の施設では「市民プール」が最も利用されています。
- 居住地別にみると、南部地域の市民は「市民プール」のほか、他の市内3施設も多く利用しています。西部地域の市民は「京王アリーナ TOKYO」を、北部地域の市民は「総合体育館プール」を、東部地域の市民は「調和小学校」を主に利用しています。
- 家族構成に着目すると、いずれのプール施設も「同居家族に子どもあり」が「同居家族に子どもなし」に比べて多く利用されていることから、子どもと一緒に利用する状況が多いものと推察できます。
- 調布市以外の公営プールも多くの市民が利用しています。屋外プールでは「府中市民プール」(府中市)、「郷土の森総合プール」(府中市)、「稲城市民プール」(稲城市)、「狛江市民プール」(狛江市)など、屋内プールでは「SUBARU 総合スポーツセンター」(三鷹市)や「アクアブルー多摩」(多摩市)を多くの市民が利用しています。

3) 公営プールの利用目的について

- 16歳以上の市民が、市民プールは「レジャー・水遊び」、総合体育館と調和小学校、京王アリーナTOKYOは「健康づくり」を主な目的としているのに対し、小・中学生は、「習い事・スクール」で通う民間プール施設以外は、ほとんどの施設の利用目的は「レジャー・水遊び」です。このことから、小・中学生は、夏季のみの屋外プールと通年利用の屋内プールの違いはあまり意識せず、公営プール施設を「レジャー・水遊び」の場ととらえているものと推察できます。
- 幼児用プールのある市民プールと調和小学校では、幼児の水遊びの場としても利用されています。

4) プール施設を選ぶ際のポイントについて

- 市内の公営プール4施設いずれについても、市民は「利用料金」と「通いやすさ・立地場所」を重視して選んでいます。
- プール施設を利用していない市民に「利用していない理由」を聞いたところ、小・中学生や 30～49 歳の主に子育て世代に該当する年代が「自宅から遠い・行きやすい場所がない」を理由としてあげていることから、子どもや子育て世代の利用を期待するためには、「通いやすさ・立地場所」は重要な要素といえます。

5) 公営プールに期待する役割について

- 小・中学生や子育て世代に該当する年代は「レクリエーション・レジャーの場の提供」を多く期待しています。
- 特に50歳以上では「健康増進、体力向上の場の提供」を多く期待しています。

6) 市民プールや公営プールの必要性について

- 自由意見では、市民プールの存続・再開を希望する意見が、南部地域、50 歳以上の方から多く寄せられました。主に『教育や育成、健康の観点から』、『子どもたちのために』、という意見でした。
- 一方、市の財政難や費用対効果を懸念し、夏季のみの屋外プールの廃止・統廃合を求める意見も寄せられました。主に『近年の猛暑や気候変動の影響のため』、『利用頻度やニーズが変化しているため』、という意見でした。
- 公営プール(主に屋内プール)は必要という意見も寄せられました。主に『安価で気軽に利用できる価値がある』、『民間施設への代替は限界がある』、という意見でした。

7) 市民プールの屋内化・通年利用への再整備について

- 自由意見では、夏季のみ営業する屋外の市民プールについて、屋内化し、通年利用できるように再整備を要望する意見も寄せられました。主に『猛暑や気候変動の影響を考えて』、『健康増進を目的とした日常利用のため』、という意見でした。

8) 子供向けの施設・設備について

- 自由意見では、子ども向けの施設・設備の充実を求める意見も寄せられました。主に、『子ども・幼児が楽しめるプール施設・設備の充実』、『レジャー性の高い設備(スライダー・流れるプールなど)の導入希望』、『家族や保護者も安心・快適に利用できる配慮(更衣室・日陰・休憩所など)』という意見でした。

1-2 団体ヒアリング調査

(1) 調査概要

1) 調査目的

団体ヒアリング調査は、施設管理者の視点、施設利用者(受益者)を代表する視点、水泳の普及・振興の視点などから、公営プールのあり方や屋外プールの必要性、今後の利用見通し等について意見をうかがい、今後の調布市民プールのあり方を検討するうえで有益な知見を得ることを目的に行いました。

2) 調査方法

訪問による個別対話形式

3) 調査対象者

以下の団体を調査対象としました。

表 6 団体ヒアリングの調査対象者

調査対象者	選定理由
公益社団法人 調布市スポーツ協会	スポーツ大会の企画・運営等を通じて調布市のスポーツ振興を担い、また指定管理者として調布市総合体育館の管理運営を行っている
調布市水泳連盟	水泳競技大会の企画・運営や水泳教室、水泳指導者の育成等を通じて調布市の水泳の振興に貢献している
特定非営利活動法人 調和SHC倶楽部	市内唯一の総合型地域スポーツクラブであり、健康目的の水泳や水中歩行等のサークル、小学生のスイミングサポート等を実施している

4) 主なヒアリング事項

対象者に事前送付した基本的なヒアリング事項を示します。このほか、ヒアリング時の状況に応じて適宜追加して実施しました。

- 貴団体が総合体育館プールや調和小学校プールで行っているプログラムについて、概要をご教授ください。
- 新型コロナウイルス感染拡大前(2019年)と比較して、現在の総合体育館プールや調和小学校プールの利用者の状況に変化があれば、その内容を具体的にご教授ください。
- 調布市市民プールが休止している状況を前提に、各団体の立場から、市内のプール施設に関する問題や課題、市への要望等がありましたら、ご教授ください。
- 調布市民プールの今後の方向性に関し、想定可能な以下の3つそれぞれについて、団体の立場から気になる点、懸念や課題、市への要望などがありましたらご教授ください。
方向性①: 50mプールを応急改修し、維持・存続(耐用年数が到来した時点で更新)
方向性②: 屋内プールとして再整備(位置は現在地、もしくは別の適地)
方向性③: 市民プールは廃止し、市内の各公営プールに機能を移転(分散)

(2) ヒアリング調査の実施

以下の通りヒアリング調査を実施しました。

表 7 団体ヒアリングの実施

実施日	団体名	対応者
7月11日(木)	公益社団法人調布市スポーツ協会	事務局長, 事務局総務係長 計2名
	調布市水泳連盟	会長, 競技委員長 計2名
7月12日(金)	特定非営利活動法人調和SHC倶楽部	会長, 副会長, 事務局長 計3名

(3) 団体ヒアリング調査結果の概要(総括)

1) 未就学児が利用できるプールや水遊び場の必要性

- 未就学児が利用できる公営のプール施設は、市内では調布市民プール(幼児用プール、変形プール)と調和小学校(幼児用プール)のみであり、水遊び場も市南部の鬼太郎ひろば河童の三平池と染地児童館子育てひろば水遊びなど限られています。市民プールは中止、調和小学校は駐車場の用意がなく近隣の地域利用が中心のため、市内施設だけでは未就学児の利用ニーズを満たせていないことが推察されます。

2) 身近な地域におけるプール施設の必要性

- 北部の総合体育館プールは、駐車場台数が十分ではなく、公共交通のアクセス性も良くはないため、徒歩や自転車で来られる近隣住民の利用が中心です。東部の調和小学校プールも同様、駐車場がなく、多くは徒歩や自転車で来られる近隣住民です。
- 市内の公営プールは西部の京王アリーナTOKYOと南部の調布市民プールと合わせ、ちょうど市内の東西南北に配置されています。市民の健康増進や体力向上を図る観点から、身近なエリアに日常的に利用できるプール施設が必要だとの意見をいただいています。

3) 屋外プールの利用ニーズの低下、屋内プールへの利用ニーズの移行

- ヒアリングを行った3団体ともに、屋外プールの利用ニーズは今後さらに低下していくものとみています。夏の楽しみ方が多様化していること、猛暑による熱中症リスクの高まりや急な天候変化の増加から屋外プールが敬遠される傾向にあること、健康意識の高まりなどから通年利用できる屋内プールに利用ニーズがシフトしていることが主な理由です。
- 特に熱中症リスクは人命にも関わる喫緊の課題と認識されています。かつて市民プールで開催していた水泳連盟主催の水泳大会は現在総合体育館プールで実施されており、今後も屋外プールに戻す方針はないとのことです。

4) 屋内プールの整備ニーズ

- 調布市民プールの今後の方向性について、50mプールの応急改修による営業再開は、熱中症リスクが解消されないほか、改修への投資金額に対する施設の残りの耐用年数、夏季のみの営業期間などを考えると費用対効果の点からも現実的ではなく、健康増進やスポーツ振興の観点からも南部エリアの拠点的な屋内プールの整備を目指すことが望ましいと意見をいただいています。
- また、屋内プールを整備する場合は、将来的に学校の水泳授業を受け入れる可能性も考慮し、地域に分散して配置することが必要との意見をいただいています。

1-3 民間事業者ヒアリング調査

(1) 調査概要

1) 調査目的

民間事業者ヒアリング調査は、公共の屋外プール等の指定管理を受託している事業者や公民連携による再整備事業の実績のある事業者、現場の視点から意見をうかがい、今後の調布市民プールのあり方を検討するうえで有益な知見を得ることを目的に行いました。

2) 調査方法

訪問による個別対話形式

3) 対象事業者

近年において、同種のプール施設の官民連携による事業実績を有する事業者や屋内外のレジャープールの運営実績を持つ事業者、調査協力を依頼し、承諾を得た以下の事業者を対象としました。

表 8 対象事業者

事業者名	事業区分	実績
(株)フージャースホールディングス(グループ)	・ 不動産関連サービス事業 ・ 不動産開発事業 など	原山公園プール(大阪府堺市)の再整備運営事業(PFI)の代表、ほか PFI 事業実績多数
シンコースポーツ(株)	・ 施設マネジメント事業 ・ 地域支援事業(学校水泳授業の指導およびプール施設管理など)など	日野市民プール、あきる野市民プールのほか、全国で屋内・屋外プールの指定管理者実績多数

4) 主なヒアリング事項

対象者に事前送付した基本的なヒアリング事項を示します。このほか、ヒアリング時の状況に応じて適宜追加して実施しました。

- 近年の屋外プールやレジャープールのトレンド、今後の見通しについてご教示ください。
- 参考になりそうな屋外プールの成功事例や自治体の取組について、ご教授ください。
- 屋外プールの集客増加や収益性向上に向けた取組について、現在取り組んでいることや心掛けていること、今後取り組みたいことをご教授ください。
- 屋外プールの夏季以外の利用(通年利用)の考え方、夏季以外の利用(通年利用)を促す工夫などについてお考えや参考になる事例等をご教授ください。
- 調布市民プールを「屋内プール」として再整備する事業を実施する場合、貴社は事業者の一員として参画することに興味・関心があるかご教授ください。
- 公共の財政負担軽減に資する公民連携の事業手法の工夫について、貴社のお考えや行政への意向・要望、参考になりそうな事例をご教授ください。
- 公営プール(屋外・屋内を問わず)の整備や管理・運営に関し、行政への要望などをご教授ください。

(2) ヒアリング調査の実施

以下の通りヒアリング調査を実施しました。

表 9 民間業者ヒアリングの実施

実施日	民間事業者名	対応者
7月2日(木)	(株)フージャース ホールディングス(グループ)	・PFI 事業室 室長 ・統括本部 施設開発室 課長 計 2 名
	シンコースポーツ(株)	・西東京支店 支店長 ・西東京支店 マネージャー ・埼玉県屋内 50m 水泳場運営担当 マネージャー 計 3 名

(3) 民間事業者ヒアリング結果の概要(総括)

1) 屋外プールを整備する場合に留意すること

- 屋外プールを整備する際は、プールとしての利用は約2か月のため、夏季以外の利用方法について予め検討しておく必要があります。プール施設の通年利用を可能にする方法として今回のヒアリングでは、プールサイドを広く整備し、プールサイドでストレッチや音楽のイベントを通年通して実施する方法や、プールの水を抜いた状態でプール内の R(カーブ)を活かし、スケートボードや BMX の練習場として利活用する方法が挙げられました。
- 屋外プールを整備する際は、これらのように夏季以外の施設利用について予め留意しておくことが必要です。

2) 事業の収益性確保のために工夫していること・そのために行政へ求めること

- 収益性確保の工夫として、原山公園では、プールの使用料を「月額総合利用」とし、プール、トレーニング施設、スタジオ等の施設内にあるサービスを一定の月額料金で提供しています。また、プールで利用するパラソルや浮き輪等のレンタル備品の充実やテントを張れる区画を整備し、その区画を販売することも収益確保の工夫として取り組んでいます。
- こうした事業者の工夫を利用者満足度調査などで客観的に評価し、契約更新の際に加点評価される仕組みとすることで、事業者の取組意欲向上に繋がるのではないかと提案をいただいています。

3) 屋外プールの夏季利用以外の利用方法・廃止した場合の利活用方法

- 屋外プールの夏季利用以外の利用方法として、原山公園では、プールサイドを活用し、ヨガや音楽イベントを実施しています。また、屋外プールの廃止に伴い、釣り堀として利活用する施設や屋外プール内を一部改装し、サバイバルゲームの会場やスケートボード、BMX の会場として利用する事例もあります。

4) 公営プールの整備や管理・運営に関しての行政への要望

- 公営プールの整備や管理・運営に関する主な問題として、物価高騰(経済合理性)と老朽化(安全性)があり、これらに対する行政への要望として 2 点が挙げられました。
- ① 物価や人件費の高騰により、不成立となる公民連携事業の事例が増えている。施設整備や管理・運営事業を計画する際は、事前の民間対話(サウンディング調査等)を通じて適正な事業規模を把握し、適正規模の予算確保に十分留意すること。
- ② 施設の老朽化により、管理・運営が困難になる施設が増加している。そのため、長期的にプール施設の管理・運営を行うために、再整備の際には、計画に定期修繕や改修を組み込むこと。

